

2015年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY
ANNUAL REPORT

14

新潟大学教育学部

教育学部年報2015目次

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 「フレンドシップ実習」の概要	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 学習支援ボランティア派遣事業及び関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 学校インターンシップ	
2.10 インターンシップ ・企業等インターンシップ	
2.11 特色ある教育活動	
2.12 中・高校生等の大学見学	
3. 就職支援	31
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教員採用・就職活動バス支援	
3.8 教育学部就職情報ホームページ	
3.9 教職サポートルーム	
4. 学部FD	46

5. 地域貢献	47
5.1 12年研修	
5.2 市民・教員を対象とした公開講座	
5.3 教育委員会との連携事業	
5.4 新潟大学免許法認定公開講座	
5.5 委員就任状況	
6. 国際交流	54
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
7. 附属施設の活動	59
7.1 新潟小学校	
7.2 新潟中学校	
7.3 特別支援学校	
7.4 幼稚園	
7.5 長岡小学校	
7.6 長岡中学校	
8. 外部資金	75
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄付金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	
9. 教員・教育研究業績	77

〔巻末資料〕

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

1. イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	6日	新潟大学入学式, 教育学部新入生保護者懇談会
	7日	教育学部学年別ガイダンス(1年次, 3年次), 大学院教育学研究科新入生ガイダンス
	8日	教育学部学年別ガイダンス(2年次, 4年次)
	9日	介護等体験事前指導
	10日	第1学期開始
	11日	黎明祭
5月	1日	教採合格ガイダンス(4年次学生向け)
	13日	教員採用試験支援プログラム(特別支援教育, 教育心理学:全2回)(~5/25)
	21日	教員採用試験支援プログラム(教員採用検査合格者(卒業生)による模擬授業の見学)
	26日	教員採用試験支援プログラム(理科実験, 体育実技, 音楽実技, 美術実技, 家庭科実技)(~8/20まで随時実施)
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	8日	春期教育実習(~6/19)
	18日	教育学部後援会役員会
	20日	大学院教育学研究科現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	25日	教員採用試験支援プログラム(小論文指導)
	27日	教育学部後援会理事会・総会
7月	29日	教員採用試験支援プログラム(模擬授業:全6回)(~7/16), 新潟大学名誉教授称号授与式
	4日	新潟市立小・中学校教員採用検査(第1次検査)(~7/5)
	5日	新潟県公立学校教員採用検査(第1次検査)
	11日	東京都教採バスツアー(~7/13)
	17日	愛知県・名古屋市教採・就活バスツアー(~7/19)
	18日	教員免許状更新講習(~10/25)
8月	27日	教職12年経験者研修(~8/24)
	31日	第1学期定期試験(~8/6)
	5日	教員採用試験支援プログラム(面接, 場面指導)
	10日	新潟大学オープンキャンパス(~8/11)
	11日	夏期休業(~9/30)
	17日	学校図書館司書教諭講習(~8/30)
9月	19日	免許法認定公開講座(~8/22)
	20日	新潟県公立学校教員採用検査(第2次検査)(~8/23)
	21日	新潟市立小・中学校教員採用検査(第2次検査)(~8/23)
	2日	大学院教育学研究科(修士課程)入学試験
	7日	観察参加実習(~9/11)
	17日	大学院教育学研究科(修士課程)入学試験合格者発表
10月	24日	秋期卒業式, キャリア支援ガイダンス(2年次学生向け)
	29日	全学就職総合ガイダンス
	1日	秋期入学式, 第2学期開始
	14日	教員採用試験受験者向けガイダンス(3年次学生向け)
11月	17日	新潟大学Week 2015(~10/25) ※ 新大祭, 書道パフォーマンス「書道・衝動」
	26日	秋期教育実習(~11/6)
	19日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	24日	公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー
12月	26日	教育実習運営協議会
	28日	推薦入試(学校教員養成課程, 健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試, 養護教諭特別別科入試, 大学院教育学研究科(教職大学院)入試 入学試験
	11日	東京の学校見学バスツアー支援(全3回)(~2/19)
	15日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
1月	16日	推薦入試(健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試, 養護教諭特別別科入試, 大学院教育学研究科(教職大学院)入試 合格者発表
	18日	教員採用試験支援プログラム(教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス)
	24日	冬期休業(~1/6)
	7日	授業開始
2月	16日	大学入試センター試験(~1/17)
	21日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	26日	大学院教育学研究科(修士課程)第2次募集入学試験
	4日	第2学期定期試験(~2/15)
3月	8日	推薦入試(学校教員養成課程)合格者発表
	10日	大学院教育学研究科(修士課程)第2次募集入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験(前期日程)(~2/26)
	3日	教員採用試験支援プログラム(教採に向けた教職教養:全4回)(~3/24)
3月	8日	新潟大学入学試験(前期日程)合格者発表
	10日	教育学部後援会理事会
	11日	春期休業(~3/31)
	12日	新潟大学入学試験(後期日程)
	22日	新潟大学入学試験(後期日程)合格者発表
	23日	新潟大学卒業式, 教育学部卒業祝賀会

1.2 附属学校

《附属新潟小学校》

《附属新潟中学校》

《附属特別支援学校》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	8	着任式, 始業式, 入学式	8	第1学期新任式, 始業式
	28	全校参観日	9	新入生歓迎会	9	入学式
			21	全国学力・学習状況調査	22	高等部3年生修学旅行(大阪方面)(~24日)
			24	生徒総会	24	中学部遠足, 高等部1・2年生校外学習
5	21	附属大運動会	16	ときわ体育祭	1	小学部遠足
	26	中条自然教室(4年)(~5/27)	28	新潟市陸上大会(~29日)	12	第1回避難訓練
					20	春期教育実習事前観察・直前指導(~22日), 前日準備
					23	運動会, 入門教育実習①, PTA懇親会
6	6	春期教育実習(~17日)	8	春期教育実習(~19日)	4	音楽鑑賞会
	10	全校角田登山	16	新潟地区陸上大会(~17日)	8	春期教育実習~日
	22	全校参観日	19	完歩大会	10	歯科検診, 公開講座I-①(親支援プログラム)
			29	演劇鑑賞教室	22	高等部インターンシップ期間(~7月10日)
7	13	佐渡自然教室(5年)(~15日)	1	新潟地区各種大会(~2日)	2	公開講座I-③
	21	1学期終業式	9	通信陸上大会	2	中学部校内宿泊学習(~3日)
	26	市陸上記録会	10	全学年懇談会(~15日)	10	保護者懇談会
			17	1学期終業式	16	高等部校内宿泊学習(~17日)
8	2	新潟市水泳記録会	4	北信越総合体育大会(~7日)	20	高等部登校日(~22日), 入門教育実習②
	29	2学期始業式	17	全国中学校体育大会(~25日)	21	全校登校日
			17	県内附属学校園合同部会	22	卒業生を囲む会
			25	2学期始業式		
9	5	2年次観察参加実習(~9日)	7	2年次教育実習(~11日)	1	第2学期始業式 交通指導(~3日)
	13	立山自然教室(6年)(~16日)	19	演劇発表会	8	県特別支援学校スポーツ大会(ビッグスワン他)
					10	第2回避難訓練(津波想定, 2次避難)
					17	中学部3年生修学旅行(東京方面~18日)
10	15	附属ミュージアム	2	新潟市総合体育大会(陸上)	8	秋期教育実習直前指導
	24	クロスカントリーin母の森	8	新潟市総合体育大会	22	高等部校内宿泊学習(~23日)
	24	秋季教育実習(~11月4日)	16	教育研究発表会	26	秋期教育実習(~11/6)
			26	秋期教育実習(~11月6日)	28	歯科検診
11	19	附属ミュージックステーション	8	学校説明会	9	入学者選考日
			21	音楽のつどい	13	入学許可者公示
					18	小・中なかよし運動会
					19	中学部参観日
12	3	新1年生入学選考(6日)	3	全学年懇談会(~9日)	4	第38回 特別支援教育研究会
	20	2学期終業式	3	生徒会立会演説会	11	別科1日観察実習
			4	生徒会役員選挙	22	第2学期終業式
			12	入学選考検査(~13日)	24	冬季休業(~1月7日)
1	10	3学期始業式	7	3学期始業式	8	第3学期始業式, 交通安全指導(~13日)
			26	3学年進路懇談会(~28日)	13	新入生保護者説明会
					15	高等部スキー・そり教室
					27	介護等体験⑩(~28日)
2	9	初等教育研究会(~10日)	2	2学年沖縄の旅(~5日)	30	すなやま祭, 同窓の集い
	23	5年生スキー授業	18	1学年東京班別学習(~19日)	5	小学部そり教室
	24	6年生スキー授業			9	高等部体験入学
					10	中学部体験入学
3	9	6年生を送る会	1	同窓会入会式	12	小学部体験入学, 中学部スキー・そり教室
	23	3学期終業式	4	第68回卒業証書授与式	15	高等部自由参観週間(~19日)
	24	第70回卒業証書授与式	8	公立高校一般選抜検査(~9日)		
			15	3学期終業式	17	卒業証書授与式
			25	離任式	18	第3学期終業式
				25	離任式	

《附属長岡小学校》

《附属長岡中学校》

《附属幼稚園》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
7	着任式, 始業式, 入学式	6	着任式, 始業式, 入学式	7	1学期始業式
14	全校仲良しの会	7	入学式, 1年PTA入会式	8	入園式
15	全校学習参観日	11	2・3年PTA, 学校運営説明会	17	こんにちはの会
		12	学友会入会式	23	避難訓練
		15	PTA・後援会総会	24	お花見散歩・入門教育実習
				27	入門教育実習
8	研究会事前打合せ	13	クラスマッチ①	27	校園合同教育研究協議会
27	教育研究協議会	13	学友会計画総会		
		25	教育研究協議会		
		31	市内各種大会		
8	春期教育実習(～19日)	1	市内各種大会	8	春期教育実習(～19)
22	全校学習参観日(心の教育)	6	春季教育実習(～17日)	20	家族参加日(土曜参観)
23	初任者研修①	29	中越地区各種大会(～30日)	26	親子バス遠足
24	校園合同避難訓練			25	PTA講演会(講師:笠井直美園長)
25	4年サマースクール(～26日)				
25	1～3年わくわく発見遠足				
1	栖吉川フェスティバル	2	地区懇談会	3	七夕会
6	6年三者面談(～8日)	11	オープンスクール・進路説明会	16	1学期終業式
11	オープンスクール・学校説明会	21	成果を語る会		
23	1学期終業式	24	中越地区吹奏楽コンクール		
28	家庭訪問(～30日)	25	県総合体育大会(～26日)		
		27	保護者面談(～29日)		
7	親善水泳大会	3	北信越大会(～5日)	27	2学期始業式
25	5・6年赤城自然教室(～27日)	4	県吹奏楽コンクール		
28	2学期始業式	10	県内附属合同研修部会		
		17	全国中学校体育大会(～25日)		
		20	PTA校園整備活動		
		22	抱負を語る会, 授業開始		
		27	学校説明会		
5	校園大運動会(校園合同)	3	校園大運動会	5	校園合同運動会
7	観察参加実習(～11日)	5	観察・参加実習(～9日)	18	交通安全教室
16	親善陸上大会(6年)			28	入園選考説明会
18	避難訓練②				
29	初任者研修②				
5	マラソン記録会	5	新人各種大会(～6日)	6	探検遠足
13	学習参観日 児童引き渡し訓練	14	中間検討会	14	避難訓練
19	願書受付開始	17	中間検討会	19	入園選考日(～20日)
26	秋期教育実習(～11/6)	24	秋期教育実習(～11/4)	26	秋期教育実習(～11月18日)
11	親善音楽会(6年)	2	音楽発表会	14	作品展
14	校内音楽会	14	オープンスクール・進路説明会	18	県新採用教員研修会(～19日)
18	願書受付締切	17	生徒会役員選挙	30	避難訓練
27	仲良しフェスティバル	28	学友会総会		
28	入学選考検査	29	3年三者面談(～12/2)		
30	個別懇談(～12/2)				
1	選考検査結果発表	10	入学者選考検査(結果発表17日)	15	家族参観日・餅つき
19	2学期終業式	20	成果を語る会	18	2学期終業式
7	3学期始業式	6	抱負を語る会	8	3学期始業式
12	全校学習参観日	26	1年研修旅行(東京)(～27日)	12	かるた大会
13	避難訓練③			13	校園合同避難訓練
28	5・6年スノースクール(～29日)			27	そり遠足
5	入学選考二次募集検査	4	新入生・保護者説明会	2	豆まき会
8	入学選考二次募集検査結果発表	10	公立高校特色化選抜検査	12	一日入園
15	一日入学	15	2年修学旅行(～18日)	16	一日入学
18	3・4年スキー教室	27	3年生を送る会		
22	学習参観(1～3年)				
23	学習参観(4・5年)				
25	ありがとう仲良しの会				
15	3学期終業式	3	卒業証書授与式	1	ありがとうの会(5歳児への感謝の会)
16	116回卒業証書授与式	7	公立高校一般学力検査	10	3学期終業式
		17	終業式	11	第115回保育証書授与式
		24	離任式		

2. 特色ある教育活動

2.1 新潟大学教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要（2015年度）

No.	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標	実施時期、期間
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。	通年
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。	通年
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1) 佐渡市立河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3) 地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。	通年（実習は9月集中）
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度（現在の体制による実施開始年度）	(1) 附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。	9月、5日間
5	教育実習（主専攻、副専攻）	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。	春期・秋期、各2週間、総計4週間
6	研究教育実習	4年次生、大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。	通年
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める	通年
8	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。		通年
9	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。		通年
10	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小中学校において、教育活動の補助を継続的に行う。		通年
11	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。		通年
12	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。	通年

関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	46名	「教育実践体験研究Ⅰ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」（文部省（当時）、平成9年度開始）に連動する授業科目として設定（「教育実践体験研究」）。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	121名	「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目（教育実践研究関連科目）により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
佐渡市立河崎小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	5名	5名	「教育実践体験研究Ⅳ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2) 新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
附属学校（4校）		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計305名	「教育実習事前・事後指導」（2単位、学校教員養成課程においては必修）の一環を構成	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
附属学校園、協力校園 総計（のべ）219校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計（のべ）844名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
附属学校、協力校	特に設定しない	53名(大学院生7名を含む)	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」（3年次対象）および「総合教育実習」（4年次対象）を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	127校、249人(派遣要請総数)	86校、144名 (大学院生12名、他研究科生1名含む、新潟青陵大学・県立大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位） 平成17年度より新設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成（カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」）。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8) 平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。
新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	11校、27名	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計11校（関屋、新潟、日和山、有明台、上山、小針、内野、笠木、青山、五十嵐、西内野）に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	4校、7名	特に設定しない	見附市立見附小学校、田井小学校、新潟小学校、見附特別支援学校に対して、主として、7月～9月に実施された補充学習の個別指導、自然教室、水泳指導等に学生を派遣した。
三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	2校、2名	特に設定しない	三条市立三条小学校、嵐南小学校に対して、学習の個別支援補助、休み時間の遊び、放課後子ども教室での活動等に学生を派遣した。
燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	8校、のべ79名	特に設定しない	小学校4校（燕北小、吉田小、吉田北小、分水小）と中学校4校（小池中、燕北中、吉田中、分水小）に対して、学習支援（授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援）、行事やイベントの補助、部活動の補助に派遣した。 また、市教育委員会の事業（小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に1名を派遣した。
附属学校園、協力校園	特に設定しない	4名	「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、選択必修、2単位）	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」（研究科共通科目、必修、2単位）の一環として実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で19年目を迎えた。主に、教育学部学校教員養成課程1, 2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである）。

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、昨年度同様に計4コース（募集人数50名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られるようになった。最終的な認定を必要としない学生（リピーターとして参加している2年次以上の学生）も数名見られるようになった。単位認定者数以上に、多くの学生参加があった。

平成27年度「フレンドシップ実習」コース月活動内容についての一覧

コース名	担当 教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加 学生数
①グループ 体験コー ス	松井賢二	個別実習 9月中 全体実習 8月11日	ひまわりクラブ と連携し学生企 画の遊びで交流	西内野ひまわ りクラブ 新通ひまわり クラブ	13名
②子どもふ れあいス クール体 験コース	大平淳一	1学期から毎週、定期 的・継続的に学校を訪 問して実施している。	市教委と連携し 放課後や土曜日 午前中に学校施 設内で子どもと 遊び等を通して ふれあい	内野小学校 五十嵐小学校 日和山小学校 西内野小学校 青山小学校 関屋小学校	10名
③自然科学 実体験コ ース	宮菌衛	5月から12月の計7 回（8月は除く） 8月「宇宙教室」	NPO 法人星空フ ァクトリー主催 科学実験講座の 補助、JAXA 協力	NIC 新潟大学前 新潟大学	15名
④中学生キ ャリア教 育コース	宮菌衛 大平淳一	8月、11月、2月 計3回	中学生との交流 を通して、キャ リアを考える手 助けをする	こども自然王 国 青葉台中学校	8名
全体発表会	松井賢二 大平淳一 宮菌衛	12月21日（月） 16:30～18:30	各コースの活動 発表会を学生手 動で実施	教育学部 202 講義室	約50名

2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて17年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。平成27年度においては、実習協力校12校3園、学部教員36名の受け入れ・指導体制によって実施した。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は141人、受入者は121人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～12名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ態勢の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	15名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	14名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	12名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	10名
(D) 幼稚園訪問コース	10名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	12名

上記の体制により、学生は、4月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員3名、過去の履修経験者（現職の大学院生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

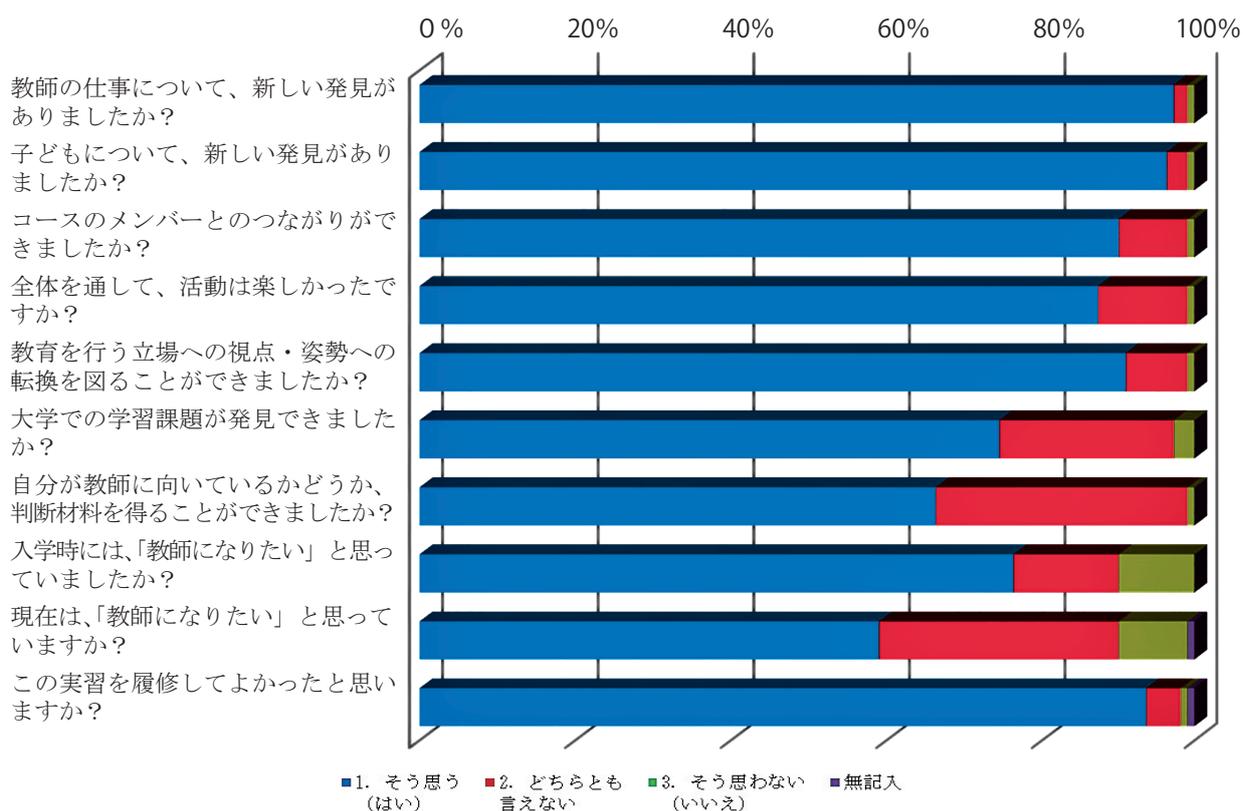
3. 学生の動向

平成27年度における学校教員養成課程の入学者は220人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は141名、履修希望者は134名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、64.1%、60.9%にあたる。最終的な受入学生数は121人であり、これは履修希望者の90.3%にあたる。

平成 27 年度においても、報告会の機会を利用して、「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数 110 名、回収率 90.9%）。結果の一部を次に示す。

4. おわりに

グラフ 「入門教育実習」の成果と課題に関するアンケート調査より



「入門教育実習」については、『1 年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 (第 17 年次)』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編、2016 年 3 月）に報告している。学部のホームページにも、その一部を公開している。合わせてご参照頂ければ幸いである。



実習風景 (附属幼稚園)



実習風景 (分水中学校)

2.4 佐渡実習

1. 「佐渡実習」とは

「佐渡実習」とは、「入門教育実習」での実習活動を基本として、それを発展させたものである。地域での活動を加えることにより、学校内での活動とその両方を体験し、学校だけでなく地域からも児童生徒を見ていくことのできる教員を育てることを目的とする。佐渡は集落毎に異なった祭りをもっており、祭りの盛んな地域では学校と地域の結びつきも強い。そこで、佐渡の学校と、その所在する地域の祭りを体験することにより、教員としてと、地域の住民としての両面から子どもたちと接していくことを学ぶという実習活動である。

2. 今年の佐渡実習

平成 25 年度より立ち上がった「佐渡実習」は、今年度 3 回目を迎えた。久知八幡宮例大祭の開催日が、9 月 15 日に最も近い 15 日より前の日曜日ということに変更された。これに伴って、昨年度より 1 日少ない、9 月 10 日(木)～13 日(日)の 3 泊 4 日で行った。

参加学生は男子 3 名、女子 2 名の計 5 名で木村政伸フレンドシップ事業推進室長、事務局大平の 2 人で引率、指導を行った。現地では、昨年同様佐渡市立河崎小学校の先生方と佐渡芸能伝承機構の松田祐樹氏に指導をお願いした。祭りの運営主体である城腰地区の方々にも大変お世話になった。

行程は次の通りである。

9 月 10 日(木) 佐渡への移動。佐渡市立河崎小学校での挨拶、オリエンテーション、「佐渡学」に関する講義。城腰公民館にて「花笠踊」の稽古見学。

9 月 11 日(金) 河崎小学校での「授業を参観する視点について」の講義、授業参観、総合的な学習の時間「将来の夢」の授業での 5、6 年生との交流。野崎地区集会所にて「刀刀」(とうとう)の稽古見学。

9 月 12 日(土) 佐渡島内研修。石名天然杉、大野亀、佐渡金山、大膳神社能舞台等の見学。矢島・経島での「たらい舟」体験。佐渡太鼓体験交流館でのワークショップへの飛び入り参加。

9 月 13 日(日) 下久知地区の鬼太鼓による「門付」の見学。久知八幡宮例大祭の見学、参加。祭りに参加している子どもたちの支援。

佐渡島内での研修は、文化的内容に加え、大佐渡の自然観察もできたことがよかった。学生たちは、真摯に子どもたちや地域の人々とふれあい、佐渡の文化を吸収して多くのことを学んだようである。



小学校での授業参加



久知八幡宮例大祭「花笠踊」の見学

2.5 「研究教育実習」

—教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成 16 年度より、(旧) 教育実践総合センター(平成 22 年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1) 多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2) 附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4 年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成 27 年度においては、家庭科、数学科、理科、音楽科、美術科、学校教育学の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成 27 年度においては、12 月 11 日に、学習会『「研究教育実習」の現状と課題』が開催され、数学科と美術科の実践事例が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開 (XI)』(2016 年 3 月)に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修 学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、 授業者等)
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4 年次、通年、6 単位、4 人)	卒業研究において、小・中学校家庭科の内容及び方法の検討を行い、その一部を実証的に検討した。題材名は「消費者としての自立をめざして」、「災害語をイメージして災害前の備えに活かそう」、「すみよい生活を創り出そう」「五感を使って味わうことでごはんをおいしく食べよう」であった。	新潟大学教育学部附属中学校 2 年 1 組、11 月、3 時間／新潟市立中野小屋中学校 3 年 1 組、11 月、3 時間／新潟市立曾根小学校 6 年 1 組、11 月、3 時間／新潟市立味方小学校 5 年 1 組、11 月、3 時間
垣水 修 (自然情報講座・幾何学)	1. 「卒業研究」 (4 年次、通年、6 単位、7 人)	卒業研究において、数学を活用して環境問題と持続可能な社会について考察する授業に関する研究をおこない、エコロジカル・フットプリントを題材とする教材開発をおこなった。授業実践を、附属新潟中学校においておこない、実践授業の分析をおこなった。	附属新潟中学校にて、第 2 学年の 1 クラスを対象に、11 月、2 時間の授業をおこなった。
土佐 幸子 興治 文子 山口 勇氣 (自然情報講座・理科教育学)	該当なし* (2 年次 6 人、3 年次 5 人、4 年次 5 人、教育学研究科の大学院生 4 人)	中学校理科の授業実践力向上を目的とする。参加者全員で 1 カ月以上かけて授業内容の検討、教材開発、模擬授業などを通して、ICT 活用と協働型学習も含めた発展的内容の授業実践を行った。準備期間には、実習校を事前訪問し、教員と打ち合わせも行った。 実践後には実習校教員と協議会を行い、今後の改善策を検討した。	燕中等教育学校、3 学年、5 月～2 月の土曜講座 4 日、各 80 分×2 学級。 ※2010 年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始した。事業は 2011 年度で終了。高大連携事業として継続。

柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、1人)	地域連携の企画を利用して実践し、その成果をもとに教育的効果を検証した。美術教育におけるアクティブラーニングの提案として、異領域を融合させた題材開発であり、特に、パフォーマンスアートという特殊分野を取り入れた授業方法を考案している。	芸術環境講座主催「うちのDEアート」の一企画として画房礫2階で実施、新潟市内野町の幼児から小学生、参加者(幼児2名、小学生7名、中高生9名、大人3名)計21名、4時間。
佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)	該当なし (大学院2年次、1人。随時数名の学生が補助で参加)	附属特別支援学校の絵を描く事に興味関心のある中学部・高等部の生徒を対象にした、自由参加形式の放課後活動。四つ切サイズの画用紙に持参した描画材(自由)を用いてテーマ自由で描画活動を継続的に行った。	新潟大学教育学部附属特別支援学校、中学部・高等部計14名、4月～2016年2月、計18回。 ※附属特別支援学校「アフタースクール」事業として実施。
森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育) 長澤 正樹 (教育科学講座・特別支援教育)	該当なし (3年次6人、4年次3人)	附属特別支援学校の「授業研究会」、「すなやま祭」での和太鼓の発表を目標に、半年間、放課後に継続的に稽古を行った。子どもたちは、12月及び1月の発表を堂々行うことができた。	新潟大学教育学部附属特別支援学校、中学部・高等部計12名、5月～2016年2月、計13回。 ※附属特別支援学校「アフタースクール」事業として実施。
岡野 勉 (教育科学講座、教育内容・方法)	「教育内容・方法演習」C、D (3年次5人、4年次4人、大学院1人)	「分数のわりざんは、どうして、わる数をひっくり返してかけるのか？」という問題について、演算の意味との関連を重視した形で検討を加えた。この問題について、小学校6年生を対象に実施された逆内包量を基礎とする説明の試みに注目し、授業プランとそれによる授業過程を対象とする分析・評価を試みた。最後に、授業者を招聘して検討の成果を報告すると同時に、授業プランの改訂に関する意見交換を行った。	北海道奈井江町立奈井江小学校、第6学年、2014年2月12～14日、全5時間、授業者、同校教諭、丹尾春彦。実験授業として、千葉大学との共同研究として実施された。

2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

—学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成 15 年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として 4 年次生）、大学院生が、年間、週 1 回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成 17 年 6 月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後 13 年目にあたる平成 27 年度において、学校からの派遣要請総数は 127 校、249 人であった。派遣されたのは、教育学部 3・4 年次生のほか、大学院教育学研究科、現代社会文化研究科に在籍する学生・大学院生、総計 144 名である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（56 校、97 名）、中学校（24 校、38 名）、幼稚園（3 園、4 名）、特別支援学校（2 校、3 名）、中等教育学校（1 校、2 名）総計 86 校である。学校数、派遣人数については、平成 26 年度（86 校、138 名）から、派遣校数は同数、派遣者数が 6 人増加した。なお、平成 18 年度から新潟青陵大学、平成 26 年度から新潟県立大学がこの事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9 月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生 88 名のほか、派遣校教員 13 名、大学教員 5 名、新潟市教育委員会担当者 1 名、総計 107 名が参加）。12 月には、「平成 27 年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生 92 名のほか、派遣校教員 43 名、大学教員 5 名、新潟市教育委員会 1 名、総計 141 名）。

平成 17 年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2 単位、選択）が設定されている。平成 27 年度においては、40 名の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第 13 年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域教育推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校 11 校に対して、27 名の学生を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、見附市立学校には 4 校（小学校 3 校、特別支援学校 1 校）に 7 人、三条市立学校には 2 校（小学校 2 校）に 2 名、燕市立学校には 8 校（小学校 4 校、中学校 4 校）にのべ 79 名の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景（体育の指導補助）



公開シンポジウム（全体討論風景）

2.7 教育実習

1 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

2 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

(1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

(2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。実習後には、附属学校の教員等を講師として事後指導を兼ねてのキャリアガイダンスを実施した。

(3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

(4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.8 介護等体験

1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成 9 年法律第 90 号）が公布され、平成 10 年 4 月 1 日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校教員免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で 5 日間、本学の特別支援学校で 2 日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員業務補助等々幅広い体験となっている。

2 ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成 27 年 4 月 9 日（木）

対 象 平成 27 年度に介護等体験を希望する者（主として 2 年生）

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施に当たって

教育学部介護等体験実施委員会委員長 田中 咲子 准教授

(3) 介護等体験受入施設、学校における事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

「特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 今井 聡己 氏

(4) 介護等体験に係る諸連絡

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

○ ガイダンス

月 日 平成 27 年 11 月 18 日（水）

対 象 平成 28 年度に介護等体験を希望する者（主として 1 年生）

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

3 実習状況

平成 27 年度は、学校教員養成課程 204 名、その他の課程 81 名、大学院 2 名の計 287 名が表 1 及び表 2 のとおり実習を行った。

4 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により 5 名の学生が実習の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】平成 27 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	56	207	
長岡市	11	13	
三条市	2	2	
柏崎市	4	6	
新発田市	3	4	
小千谷市	2	2	
加茂市	1	3	
十日町市	1	1	
見附市	2	2	
村上市	3	3	
燕市	4	7	
糸魚川市	2	4	
妙高市	2	2	
五泉市	3	4	
上越市	4	11	
阿賀野市	1	1	
佐渡市	4	5	
魚沼市	2	2	
南魚沼市	2	2	
胎内市	1	2	
田上町	1	1	
津南町	1	1	
関川村	1	1	
合 計	113	286	

※ 1名が昨年度までに社会福祉施設における介護等体験実施済

【表 2】平成 27 年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5月13日 ～ 5月14日	30
	2	5月20日 ～ 5月21日	31
	3	5月27日 ～ 5月28日	31
	4	6月24日 ～ 6月25日	30
	5	7月8日 ～ 7月9日	30
	6	9月15日 ～ 9月16日	27
	7	9月30日 ～ 10月1日	29
	8	10月7日 ～ 10月8日	30
	9	10月20日 ～ 10月21日	35
	10	1月27日 ～ 1月28日	14
合 計			287

2.9 「学校インターンシップ」—大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成 17 年度より「学校インターンシップ」を実施している。①実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に②教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して③専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成 19 年度までは「教育実践総合研究」(2 単位)の一環として位置付けられていたが、平成 20 年度に行われたカリキュラム改革により「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、2 単位)として独立している。

平成 27 年度においては 5 名の大学院生が活動を実施した。その概要は以下の通りである。

No.	所属	実施校	目的、活動内容、形態	時期
1	教育実践開発コース	新潟市立 下山中学校	修士論文に関わる実践 特別支援教育についての職員研修 授業研究	6 月～ 12 月
2	特別支援教育分野	新潟大学 教育学部附属 特別支援学校	実施校における通級指導の見学や参加を通して、特別支援教育の専門性を高め、自己の課題を見つける。 通級指導の様子を見学し、実際に指導に関わる。	6 月～ 3 月
3	音楽教育専修	新潟市立 御免町小学校	次期学習指導要領を意識した、授業案を作成し、実践することにより、研究テーマの「音楽科におけるアクティブラーニング型授業」を具体化し、実践論文としてまとめる。	6 月～ 12 月
4	特別支援教育分野	新潟大学 教育学部附属 特別支援学校	発達障害通級指導教室における学習支援の在り方を探る。 コミュニケーションや読み書きなどの困難さに応じた支援。	4 月～ 3 月
5	特別支援教育分野	新潟大学 教育学部附属 特別支援学校	通級指導教室への観察及び参加を通して、子供の自己肯定感を高め、自己の困難を改善させるための知識・意欲等を高めるための指導及び関わり方について検討。 学習に関する困難さをもつ子供たちを対象とした通級指導教室での観察及び参加。	6 月～ 3 月

2015 年 12 月 18 日に 5 名の受講生により組織された実行委員会の計画、運営により「学校インターンシップ報告会」が開催された。当日は、有川委員長の挨拶に続き、2 名の活動報告および参加学生と教員による質疑応答(交流会)が行われ、最後に木村副学部長の挨拶で締められた。

なお、平成 27 年度の活動内容と成果について、次の報告書を発行した。

- ・新潟大学大学院教育学研究科学校インターンシップ委員会編『大学院教育における実践的カリキュラムの開発(第 11 年次)－平成 27 年度「学校インターンシップ」実施報告書』、2016 年 3 月

2.10 インターンシップ

- ・企業等インターンシップ

(1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

①平成27年度インターンシップの概要

- ・実施時期及び期間

平成27年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

- ・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

- ・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。社会教育主事資格の演習科目。担当教員：雲尾）単位認定
インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

- ・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：中【1】、石山【3】、中央【3】、鳥屋野【2】、東【2】、関屋【1】、新津【2】、
白根【1】、坂井輪【4】、西【4】、小針青山【1】

新潟市図書館：坂井輪【1】（公民館実習と兼ねる）

新潟県立生涯学習推進センター【2】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【3】

②報告書

『平成27年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成28年2月26日）110部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め、実際に行う際の参考にさせています。

「企業等インターンシップ」(音楽表現コース)

音楽表現コースでは、現在6つの企業や団体が学生のインターンシップを受け入れている。それらは、Sony Music Foundation、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall、鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」、ヤマハミュージックリテイリング新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、国際音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売業務など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。

2015年度のインターンシップには9名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は『平成27年度 新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第15号を参照

- ・公益財団法人 東京交響楽団事務局：9月（1名）
事務所（ミュージザ川崎）見学、第55回こども定期演奏会リハーサル見学、サントリーホール定期演奏会や新潟定期演奏会等の運営業務やステージ・マネジメント実習。
- ・Hakuju Hall：8月（1名）
リクライニング・コンサート、並びにギター・フェスタ2015等でのケータリング業務、受付業務、その他の運営業務。
- ・鼓童：8月（1名）
国際音楽祭 Earth Celebration での舞台設営や、フリンジの設営業務。
- ・公益財団法人 新潟市文化振興財団：9月（1名）
東京交響楽団員による新潟市内での学校訪問演奏会（アウトリーチ）補助業務。
- ・ヤマハミュージックリテイリング新潟店：9月（2名）
楽譜、楽器等の販売業務や音楽教室運営の見学、補佐など。
- ・Sony Music Foundation：10月（3名）
第8回国際オーボエ・コンクールの運営業務。

2.11 特色ある教育活動（保健体育・スポーツ科学講座）

・アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports For P. E. A. C. E.～

本プロジェクトは平成22年度より24年度まで新潟大学組織的教育プロジェクト（新潟大学GP）として実施された企画を継続しているものである。本年度は漢陽大学（韓国）がホスト校となって新潟大学（日本）と哈爾濱商業大学（中国）が訪韓し、スポーツを通じた交流を行った。

行程は以下の表の通りであった。

期間		平成27年11月17日(火)～11月20日(金)		
11/17 (火)	6:50	集合	新潟大学西門	
	7:00	出発	同上	五十嵐先生、牛山先生の車にて空港へ
	9:30	日本発	新潟空港	
	12:00	韓国着	仁川空港	到着後両替
	13:00	昼食	仁川空港内	ロッテリアにて
	13:40	移動		空港リムジンバス利用(担当者付き)
	15:30	ホテルチェックイン	The summit Hotel	
		韓・中・日会議	The summit Hotel	
	18:00～20:00	ウェルカムパーティー	The summit Hotel	芸術体育大学学長ら出席
11/18 (水)	8:00	朝食	ホテル内ビュッフェ	
	10:00～11:30	教員・学生研究討論会	漢陽大学オリンピック体育館	主題「Sports for P.E.A.C.E.」
	11:00～13:00	昼食	漢陽大学内食堂	日本・中国チーム
	15:00～17:00	エリカキャンパス紹介・見学	エリカキャンパス	
		ゴルフ交流	エリカキャンパス	漢陽大学ゴルフ部合同参加
	19:00～21:00	オフィシャルディナー	president hotel	金総長によるご招待
11/19 (木)	8:00	朝食	ホテル内ビュッフェ	
	10:00～12:00	バスケットボール交流	漢陽大学オリンピック体育館	基本技術の練習・ゲーム
	12:00～13:00	昼食	体育部室食堂	
	14:00～16:00	体操交流	漢陽大学オリンピック体育館	漢陽大学体操部の練習へ参加・見学
	16:00～17:00	漢陽大学歴史博物館見学	漢陽大学	
	18:30～20:30	歓送会	The summit Hotel	
11/20 (金)	8:00	朝食	ホテル内ビュッフェ	
	09:00～12:00	昌徳宮観光	昌徳宮	
	13:30～14:30	昼食	The summit Hotel	
	15:00	空港への移動等		空港リムジンバス利用
	17:00	チェックイン、買い物	仁川空港	
	18:45	韓国発	仁川空港	
	20:35	日本着	新潟空港	先生方の車にて帰宅

2015「新大なんでもスポーツプロジェクト」について

10年目を迎えた「新大なんでもスポーツプロジェクト」、今年度も保健体育・スポーツ科学講座の大学院生、学生、教員が7つのプロジェクト種目を企画し、地域の人々とスポーツ活動等を通して交流するとともに、指導者資質を高める大変意義のある機会となった。

以下の表は今回の7つのプロジェクトの名称、参加者数、充足率を示したものである。合計322名の市民と交流を果たした。

コース名	募集人員	回数	開催日時	参加者数	参加率(%)
A 安心・安全のためのスポーツ環境づくり ースポーツ指導におけるリスクマネジメントー キ ッ ヅ リ ズ ム 体 操	約30名	2	a:7/13(月) b:7/17(金)	第1回:37 第2回:47	第1回:123.3 第2回:156.7
B ーリズム体操とGボール運動でダイナミックに 動こうー	20名程度	3	第1回:9/27(日) 第2回:10/17 (土) 第3回:10/25(日)	18	90.0
C 360°回転!ラート体験	成人10名 程度	3	第1回:9/27(日) 第2回:10/17 (土) 第3回:10/25(日)	13	130.0
D スイムクリニック	30名程度	2	第1回:9/26(土) 第2回:10/3 (土)	第1回:44 第2回:36	第1回:146.7 第2回:120.0
E 小・中学生のための卓球教室	60名	4	第1回:9/12(土) 第2回:9/13 (日) 第3回:9/19(土) 第4回: 9/20(日)	95	158.3
F 集まれ!ソフトボール広場	20名程度	3	第1回:10/11(日) 第2回:10/17 (土) 第3回:10/25(日)	19	63.3
G 市民ランナー入門 ーあなたにもフルマラソンが走れますー	各回30名	4	1.10/17(土) 2.11/1(日) 3.11/8(日) 4.11/29(日)	13	43.3



佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で7年目になる佐渡市豊岡地区祭り（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。3月29日に佐渡に入り民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。例年祭りは4月の第2日曜日と定められているが、この年は第2日曜日に選挙が行われる関係で第1日曜日の4月6日に祭りが行われた。そのため、例年一旦大学に戻るが、今年は合宿から祭りまで引き続いて現地で留まって活動が行われた。また、例年、学生は法被を着けて舞うだけだが、今年も学生1名が面、装束を着けて舞うという重責を任された。今年はいいにくの雨の中で行われたが、全員が元気で無事祭りを勤めあげた。



村上市立西神納小学校訪問演奏

9月3日村上市立西神納小学校、10月25日村上市立さんぼく北小学校に訪問演奏に出向いた。これは音楽教育実践入門Ⅰ及びⅡ（コレギウム）の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30数名で行ったものである。今年はアメリカの「ゴスペル」をテーマにミュージカルを演じ、好評を博した。なお、上記の場所は遠隔地で交通費もかかることから、平成28年度以降は大学の近くの小学校に訪問会場を変更することになっている。



附属特別支援学校アフタースクール

平成27年度より、附属特別支援学校中高等部の課外授業としてアフタースクールが行われた。音楽と美術が持たれたが、音楽では森下研究室所属学生が佐渡豊岡の鬼太鼓を簡略化したものを指導した。それらの学習の成果は12月4日の授業研究会および1月30日のすなやま祭りで披露され、好評を博した。



特色ある教育活動（音楽表現コース）

新潟市西区役所との連携により、大学と地域連携プロジェクト「暮らしっく広場 2015」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」、「卒業研究」等）の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われているこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、最終年にあたる今年は「西区国際音楽祭～世界の音に、会いに行こう！～」と題し、日本、ドイツ、アメリカ、イタリアの音楽を、できる限りその国で活躍するアーティストの演奏で楽しめる国際音楽祭を実施した（参加人数：約 1200 人）。

従来と異なり、ドイツAクラスのオーケストラであるシュトゥットガルト放送交響楽団のメンバーと日本の若手ホープから成る Ludwig Chamber Players の公演（4月）や、本学音楽科とかねてから交流のあったアメリカ、サスケハナ大学の教員や学生による公演（5月）など、変化に富むコンサートが学生の企画運営によって実現した。声楽では、新潟にルーツを持ちながら全国規模で活躍する優れた歌手陣によるオペラシーン・コンサートが聴衆の熱い期待に応えた。

全公演を通し、聴衆からの質問にアーティストが答えるコーナーを設けたり、4月公演ではサイン会も行ったりするなど、アーティストと聴衆が身近に触れ合う場を設定した。そのような工夫がアンケート調査にも反映され、今までにない共感の輪が広がった。

またブック型の大型オブジェや、コンサート会場ロビーに展示した聴衆参加型のオブジェ等が好評を得、大学中央図書館で行われたゲリラコンサートなど、従来と違った広報活動を通して今まで接点の無かった人たちにもこのプロジェクトを知らしめる機会となった。これらによって、満席公演（4月のLCP公演）が出たり、SNSの充実や無料公演の申し込み期間を1カ月に短縮することで申し込み者の大幅な増加を見たりするなど、充実した教育プログラムとなった。

詳細は、横坂研究室ホームページ (<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>) に掲載の広報紙や各企画のチラシ、ガイドブック等を参照のこと。

健康スポーツ科学課程

平成27年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

本課程においては、平成12年より3年生対象に課程共通必修科目として、「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」の科目名称で、インターンシップを実施している。

ヘルスプロモーションコースにおいては、健康関連機関において実態観察と運営、指導等の実務に携わり、スポーツ科学コースにおいては、体育・スポーツ関連の諸機関・施設において事務・実技指導等の実務に携わる実習を行った。今年度の実習先は、14ヶ所であった。実習先は一覧に示す。

1. 学年・単位 3年生、必修科目2単位
2. 事前事後指導 4月から10月まで8回実施
3. 実習期日・期間 8月下旬から2週間
4. 特別講演 7月16日(全学年参加)講師; 関 博之 氏
5. 実習報告会 10月29日(木)(全学年参加)
6. 実習報告書作成 12月

実習先一覧

受け入れ企業名	期 間	人数
新潟市保健所	8 / 3 1～9 / 1 1	2人
新潟県健康づくり・医科学センター	9 / 3～9 / 1 6	3人
新潟県体育協会	9 / 8～9 / 2 1	2人
新潟市スポーツ振興課	9 / 1～9 / 1 4	2人
新潟市体育協会	9 / 8～9 / 2 1	2人
新潟市西総合スポーツセンター	9 / 8～9 / 2 1	2人
新潟市東総合スポーツセンター	9 / 8～9 / 2 1	2人
新潟市鳥屋野総合体育館	9 / 8～9 / 2 1	2人
新潟市亀田総合体育館	9 / 8～9 / 2 1	2人
下山スポーツセンター	9 / 8～9 / 2 1	2人
障害者交流センター	9 / 1 3～9 / 2 6	1人
ビジョン吉田及びスポーツバイキング分水	8 / 2 4～9 / 6	8人
メディカルフィットネス クオーレ	9 / 7～9 / 1 9	2人
下越メディカルフィットネス ウォーム	9 / 7～9 / 1 9	2人

国語教育講座の活動

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 27 年度夏期研究会

日時：平成 27 年 7 月 25 日（土）14：00～17：00

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：シンポジウム「国語教師のライフヒストリー ―ベテラン教員の生活と教育―」

シンポジスト 新潟市立江南小学校 勝山 操

新潟市立東石山中学校 牧野 淡紅恵

新潟市立万代高等学校 鹿嶋 照章

コーディネーター 新 潟 大 学 磯貝 淳一

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 26 年度研究大会

日時：平成 28 年 2 月 6 日（土）14：00～17：30

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：

① 研究発表

『大鏡』作者の位置 藤原資平の視点から ―作品構想の成り立ちについて―

元・新潟市立中学校教諭 五十嵐正子

「少年の日の思い出」における語り手 ―平成 28 年度教科書の学習の手引きから―

新潟県教育庁下越教育事務所 三村 孝志

② 講演

「読むこと」の評価をめぐって 新潟大学教育学部 足立 幸子

③ 総会

(3) 機関誌『新大國語』の編集・刊行

①『新大國語』第 37 号（平成 27 年 3 月）を刊行。

②『新大國語』第 38 号（平成 27 年 3 月）を編集。

特色ある教育活動（書表現コース）

学生主催による新潟市中心部における書展開催が恒例行事になっている。卒業生は元より、沢山の書家・書道愛好者が来場される。

作品発表までには授業の一環として作品批評会を設け、一人畳6枚分平均の大作に取り組む。表具・宣伝・搬入・飾りつけ・接客・搬出に至るまですべて学生が手作りで運営にあたるのが、本校の伝統である。

- ① 学年展「稔葉」(2015. 4)
- ② 東日本出身者「芙蓉会書展」(2015. 7)
- ③ 西日本出身者「驥鳳会書展」(2015. 8)
- ④ 3年生男子による書展(2015. 10)
- ⑤ 書道科展(2015. 12)
- ⑥ 卒業制作展(2016. 2)

一方、社会の要請に応じて3人の教員が様々な学外の文化活動に、学生を引率して関与している。その例を記す。

- ① 東アジア書の美学国際シンポジウム(2015. 7)
シンポジウムには国内をはじめ、欧米・東アジアから各国を代表する書や美術研究者が集結した。本コースの学生が良寛の詩に基づくワークショップを開催し、好評を得た。
- ② ロシア青年団親善大学訪問毛筆体験学習(2015. 7)
- ③ 新潟市立中野小屋中学校創立70周年記念 出前授業「ワッ書い！」(2015. 10)
- ④ みつけこども大学出前講義「楽しく文字を書く」(2015. 11)
- ⑤ 新潟市立木山小学校創立140周年記念書き初め大会(2016. 1)
- ⑥ 大人のたしなみ 美文字マスター 新潟市西蒲区西川地域コミュニティー協議会(2016. 1)

例えば、③⑤は重要な学校行事に新しい書表現の試みが求められたもので、生徒保護者の注目を大いに集めた。学生自身、地域社会に自己の専門性が求められていることへの気づきができた。書写は国語教科で行われるはずだが、指導者が不在のためほとんどが未履修の状態である。現場からの要請で、しっかりした正しい指導を求められることが多いので、今後も学生を引率して出前講義に積極的に伺うつもりである。



特色ある教育活動（美術教育専修および芸術環境創造課程（造形表現コース））

1. 「地域連携アートプロジェクト」

講座での特色としては、新潟市西区内野町を舞台としてアートを用いた地域コミュニティ活性化事業である「うちのDEアート」の存在がある。また、中央区榎谷小路商店街との連携事業での「アートフ ラッグプロジェクト」の取り組みなどに取り組んだ。教員及び有志の学生は実行委員会に組織され、街の組織委員との協議を重ねプログラムを組み立てて活動を試みている。講座としての狙いは、芸術表現と社会との接点から造り上げられる新たな表現を生み出すことを目的として進めている。そこには、様々な人との関わりから生まれるコミュニケーション能力の学習、企画を遂行してゆくマネージメント能力の育成が養われている。ここで学んだ力は教員として大事な自信を持った行動力を養い、共同作業として実社会で活動した体験や経験が就職活動時のPR資料として有効に使われている。



2. 「寺泊白山媛神社天井画再現事業」

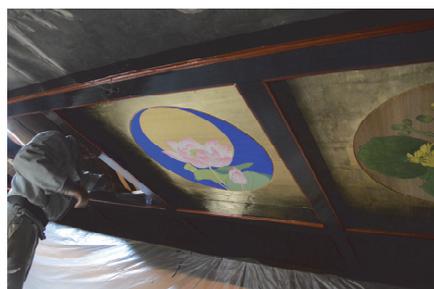
この事業は、本学卒業生で日本画家として活躍している渡辺富栄氏の紹介により、永吉研究室が依頼を受け実現した事業で、寺泊にある白山媛神社の天井画老朽化に伴い、新たな創作を加えた再現画の制作と、箔を使用した天井の工芸装飾を授業の一環として制作し、その研究成果物を神社に奉納することで地域文化に貢献するという産学連携事業である。100年後まで研究成果物が残ることを想定し、素材研究、表現方法の研究に学生らが力を注ぎ、制作実践研究として一定の成果を得られた。

事業参加者：本学准教授永吉秀司、学校教員養成課程美術教育専修所属学生（2～4年）

芸術環境創造課程造形表現コース所属学生（2年～院2年）

制作物品：杉板の箔の平押し 28枚

円形花鳥画 26枚



3. 「日本海夕日コンサート舞台演出」

日本海夕日コンサートは、新潟市民のボランティアが組織する「日本海夕日キャンペーン実行委員会」として運営されている。芸術環境講座では有志の学生を集め実行委員会との関わりの中でコンサートの舞台演出を行っている。この取り組みは、芸術表現を活かした社会体験のインターンシップとして位置づけられ、指導は柳沼教授、橋本准教授が担当している。

会期:2015年8月8日(土) 会場:新潟市青山海岸 主催:日本海夕日アートプロジェクト実行委員会 後援:新潟市



4. 「新潟大学美術教育研究会」

開催日: 2015年10月3日(土)

場所: 聖徳寺(新潟市西区内野)

本研究会は、県内の学校教員や本学部芸術環境講座の教員や学生を会員とし、年1~2回の頻度で、学校現場内外の教育実践の報告、シンポジウム等を行っている。今年度はうちのDEアート2015の関連企画として、日本美術院、キャノン株式会社の協力のもと展示が実現した、長谷川等伯筆《松林図屏風》の原寸大復元を用いて、ワークショップ型のシンポジウム「鑑賞教育アラカルト」を開催した。美術作品の鑑賞における多様な視点を考える機会となった。尚、今回は一般にも公開し、子供から大人まで幅広い参加者があった。



5. 展覧会「ギリシャ彫刻 NEO—石膏像・模写・復元」及び関連シンポジウム「石膏像のこれから—今日の美術における模写、模倣再考」

展覧会: 2015年2月28日(土)~5月10日(日) 新潟大学旭町学術資料展示館にて開催

シンポジウム: 2015年4月11日(土) 新潟大学附属図書館ライブラリーホールにて開催

本学旭町学術資料展示館との共同企画として、デッサン用石膏像を中心とした小展示と関連シンポジウムを開催した。美術教育におけるデッサン用石膏像の新たな活用方法を探るべく、石膏デッサン、石膏像を利用して学生が制作した現代アート作品等を展示した。シンポジウムでは、石膏デッサンの歴史、石膏像の原作に関する解説、画家ならびに彫刻家の立場からみた石膏デッサンや模倣の意味についての講演が行われた。



特色ある教育活動（自然情報講座）

1. 特色ある教員養成

i) 新潟市立総合教育センターとの連携

市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

ii) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

実施校において「前期課程高大連携講座（理科実験講座）」として位置づけられている土曜講座において、実験や班ごとの話し合い、ICT活用等を豊富にとり入れた理科授業を学生が行った。中学3年生を対象に、4回の授業（80分×2クラス）を行った。

2015年5月23日（土）生物（哺乳類の骨格：ブタの後脚、草食・雑食・肉食動物の頭骨）

〃 9月26日（土）地学（世界のプレート）

〃 12月5日（土）化学（ろうそくの科学）

2016年2月27日（土）物理（音でグラス内のろうそくの火を消す）

iii) 理科支援員等配置事業における小学校理科の支援

2013年度から文部科学省が実施している小学校、中学校の理科の実験・観察を支援する補助員（PASEO）として、計3名の理科の学生が新潟市の小学校で活動した。

iv) 長岡市立科学博物館との連携

長岡市立科学博物館の主催する、第64回県下生物・岩石標本展示会（10月20日～11月1日）に、理科の学生4名が植物野外実習で作成した植物標本（合計200点）を参考作品として出品した。

iv) 化学実験公開講座の開催（2015年8月7日（金））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学・21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全14テーマ）の講座を企画・実施した。この体験実験に参加した高校生は13名であった。

v) 東京都台東区生涯学習課主催「夏休み合同親子科学教室」の実践（2015年7月19日（日））

「探求の部屋」という区内の小中学生を対象とする土曜講座の一環として、理科教育学教員1名と院生1名、3年次学生1名が、浮力をテーマとして探究的な親子科学教室の実践を行った。区内の親子90名が参加した。院生・学生は、当日参加した現職教員と共に、各班の実験や話し合いの支援し、親子が実験を通して有意義な時間をもてるように補助した。

vi) 東芝未来科学館「科学実験工房」の実践（2015年7月20日（祝・月））

科学館が主催する科学教室において、理科教育学教員1名と院生1名、3年次学生1名が「光の不思議」をテーマに実践を行った。近隣の小学生48名（24名×2回）が参加した。院生・学生は初めて出会う小学生を相手に、聴覚障害をもった子どもも含め、柔軟な対応することの重要性を経験した。

vii) 北陸電力エネルギー科学館主催 科学実験フェスタに出展（2015年8月15・16日（土日））

富山市にある北陸電力エネルギー科学館ワンダーラボにおいて開催された科学実験フェスタに理科教育学教員 1 名と、院生 2 名、4 年次学生 1 名、3 年次学生 1 名が参加し、「ブタのかかと・ヒトのかかと」のワークショップと「バランス人形」のブース出展を行った。当日訪れた大勢の子どもと大人に関わり、かかとの秘密やバランスを取るコツについて参加者の学びを支援した。

viii) 新潟大学教育学部附属長岡小学校「おもしろ科学実験ショー」の実践（2015 年 10 月 6 日（火））

PTA 主催の「柔軟な発想を育てる教育事業」として、全校児童と保護者約 60 名に教員を加えた絵約 450 名を対象に、理科教育学教員 2 名と院生 2 名、4 年次学生 3 名、3 年次学生 2 名が、音をテーマに体育館で実験ショーを行った。院生・学生は、子どもたちが音が物のふるえであることを様々な活動を通して理解することを支援した。

2. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

2008 年度より長岡市立日吉小学校の科学クラブ（対象は小 4～小 6、約 20 名）の支援を実施している。今年度は理科教育学研究室の 3 年生が実施した。

内容と実施日：音を見よう！（2016 年 1 月 27 日）

2.12 中・高校生等の大学見学

本学部では、入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力をアピールしている。

担当教員は、カリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、本学部進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	7月10日	新潟県立巻高等学校PTA	保護者23名	本間 伸輔
2	7月15日	栃木県立黒磯高等学校	2年生34名	足立 幸子
3	7月16日	新潟県立小千谷高等学校	1年生80名	岡田 祥平
4	7月29日	私立新潟青陵高等学校	1年生17名	森下 修次
5	7月30日	新潟県立新井高等学校	1年生26名	伊野 義博
6	8月18日	新潟県立十日町高等学校	1年生100名	中村 和吉
7	9月18日	長野市立長野高等学校	1年生23名	五十嵐 智志
8	10月2日	福島県立郡山高等学校	1年生70名	田中 雄二
9	10月7日	私立開志国際高等学校	2年生34名	宮菌 衛
10	10月21日	私立北越高等学校	1年生21名	岡村 仁一

【附属学校等からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月15日	附属長岡小学校	5年生62名 及び保護者53名	小林 日出至郎(附属長岡小学校長)
				垣水 修(模擬授業)
				岡村 浩(模擬授業)
2	7月7日	附属新潟中学校	2年生116名	富田 健之(附属新潟中学校長)
				山本 啓介(模擬授業)
3	7月8日	新潟市立小針中学校	3年生50名	松井 賢二(キャリア教育の授業)
4	9月29日	附属長岡中学校	1年生110名	加藤 茂夫(附属長岡中学校長)
				加藤 茂夫(模擬授業)
				岡村 浩(模擬授業)

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの津野 敏江客員教授、高橋 雄一特任教授、川端 弘実特任教授、林 克久特任教授である。

1 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

2 実施内容

(1) 応用コース

対象学生：学部4年生、大学院生、養護教諭特別別科生、新潟大学の卒業生

開講時間：16:25～17:55（ただし、第2回は、下記※印のとおり）、場所：204教室 外

	実施日	テーマ（内容）	講師
1	4月16日（木）	ガイダンス・出願書類の書き方	津野・高橋・川端・林
2	5月7日（木） ※15:30～17:00	教員採用検査についての説明 （新潟県教委・新潟市教委からの説明）	新潟県教育委員会 義務教育課仙田管理主事 高等学校教育課矢沢管理主事 新潟市教育委員会 教職員課渡邊管理主事
3	5月21日（木）	筆答検査問題対策、小論文対策	津野・高橋・川端・林
4	5月28日（木）	小論文の書き方、評価	津野・高橋・川端・林
5	6月4日（木）	個人面接演習	津野・高橋・川端・林
6	6月25日（木）	集団面接、模擬授業、場面指導の対策	津野・高橋・川端・林
7	7月2日（木）	受験ニーズに応じた面接及び模擬授業等の演習	津野・高橋・川端・林
8	7月9日（木）	受験ニーズに応じた面接の演習	津野・高橋・川端・林
9	7月16日（木）	場面指導のポイント 受験ニーズに応じた面接及び模擬授業等の演習	津野・高橋・川端・林
10	7月23日（木）	模擬授業のポイント 受験ニーズに応じた面接及び模擬授業等の演習	津野・高橋・川端・林
11	7月30日（木）	受験ニーズに応じたグループ別演習	津野・高橋・川端・林
12	11月5日（木）	臨時教員採用希望者への指導・助言 （「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」）	津野・高橋・川端・林
13	11月12日（木）	採用候補者への指導・助言	本校卒業生 新潟市立上所小学校 長谷教諭 新潟市立松浜中学校 山口教諭 新潟県立長岡大手高等学校 一本槍教諭

(2) 基礎コース

主たる対象学生：学部3年生，大学院1年生 開講時間：16:25～17:55，場所：204教室 外

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月8日(木)	ガイダンス	津野・高橋・川端・林
2	10月15日(木)	教育関連法規と学習指導要領のポイント	津野・高橋・川端・林
3	11月19日(木)	学習指導上の課題とその解決に向けて	新潟市立新潟小学校 佐藤教諭 新潟市立白新中学校 山内教諭 新潟県立新潟高等学校 本間教諭
4	11月26日(木)	小論文の書き方とポイント	津野・高橋・川端・林
5	12月3日(木)	豊かな人間関係づくりの方策と取組	新潟市教育委員会 学校支援課 宮川指導主事
6	12月10日(木)	小論文の書き方と評価	津野・高橋・川端・林
7	12月17日(木)	小論文の書き方と危機管理	津野・高橋・川端・林
8	1月7日(木)	教育行政が期待する教師像	新潟県教育委員会 義務教育課 仙田管理主事 新潟市教育委員会 教職員課 池田課長補佐
9	1月21日(木)	小論文の書き方と目指す教師像	津野・高橋・川端・林
10	1月28日(木)	基礎コースのまとめ，自己PRの書き方	津野・高橋・川端・林

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

1 教員採用試験対策支援プログラム（H28.4 採用者向け）

（1）教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

平成 27 年 5 月 21 日（木）18:00～19:30、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生 2 名を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は 53 人。

実際の教員採用検査と同じ進行で授業を実施した後、質疑応答を行った。

参加者からは「実際の模擬授業の雰囲気を感じることができ、参考になるような話を聞くことができた」、「お手本となるような授業を見せてもらうことより、気を付けるポイントや指針がわかりとても有意義な時間だった」「これからの自分の課題と比較になり浮き彫りになった」など大きな刺激となった様子うかがえた。



(2) 教採対策講義（特別支援教育・教育心理学）

教員採用検査対策として以下のとおり教採対策講義を行った。参加者は延べ 64 人。

<特別支援教育の現状について> 5月13日（水）

<教採に向けた教育心理学> 5月25日（月）

参加者からは、「（特別支援）教採対策以上に現場に入ったときのビジョンが見え、学校や地域とも協力できることがわかり安心した」、「（教育心理）筆記だけでなく、採用試験に対して自分の授業観、学習観を持つことが大事だとわかった」などの意見が寄せられた。



(3) 理科実技試験対策

平成 27 年 5 月 26 日（火）、6 月 24 日（水）、26 日（金）、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者（延べ 8 人）は、理科教員から、実技試験を想定したアルコールランプなどの実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。



(4) 家庭科実技試験対策

平成 27 年 6 月 23 日 (火), 25 日 (木), 7 月 14 日 (火), 23 日 (木), 教員採用検査支援対策プログラムとして「家庭科実技試験対策」を行った。参加者は, 実技試験を想定した調理実習や被服課題の作成などを行った。



(5) 小論文指導

平成 27 年 6 月 25 日 (木) 5 限, 小久保美子教授 (国語科) 指導のもと, 「小論文指導」を行った。参加者は約 41 人。参加者からは「テーマ各に論文を分析していくうちに論文の型が, わかるようになってきて「もしかしたら書けるかな。頑張ろう。」という気持ちになれた」などの意見が寄せられた。



(6) 模擬授業

平成 27 年 6 月 29 日 (月) ～7 月 1 日 (水), 7 月 14 日 (火) ～16 日 (木) の 6 日間, 実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ 90 人。柴田副学部長・大平准教授を中心に, 現職教員 (派遣大学院生) や多くの学部教員の協力を得て実施した。

抽選により決定した授業実施者が, 実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し, 参加者との質疑討論の後, 教員等からアドバイスを受けた。参加者からは, 「様々な教科の人の授業を見ることで, 自分の教科に取り入れられる視点があるので, とても有意義に感じた」などの意見があった。



(7) 面接・場面指導

平成 27 年 8 月 5 日 (水) 5 限, 「面接・場面指導」対策講義を行った。参加者は 72 人。

全学教職支援センター高橋特任教授, 川端特任教授をはじめ, 伊野教授, 大平准教授が面接官役となり, 学生代表者 3 人と実際の教員採用試験を想定した面接・場面指導を行った。参加者からは, 「客観的に場面指導をみることができ, 自分ならどうするか考えることができた」, 「実際の事例と見ながら要点やポイントを一緒に考えることができた」など, 二次試験の面接に向け, 意欲を高めた。



(8) 体育実技 (器械運動)

平成 27 年 5 月 29 日 (金) から 7 月 24 日 (金) の毎週金曜日、第二体育館において「体育実技練習会 (器械運動)」を行った。参加者は 60 人。五十嵐久人教授指導のもと、教員採用試験の実技科目 (マット運動・鉄棒など) について、実践的な指導を行った。

また、練習会日程終了後の自主練習会場として、体育館の貸し出しを行った (8 月 12 日 (水) ~20 日 (木))。



(9) 体育実技 (ダンス)

檜皮講師の指導のもと、体育実技対策 (ダンス) を行った。参加者は、動きの見せ方や目線など具体的な指導を受けた。



2 教員採用試験対策支援プログラム（H29.4 採用者向け）

（1）教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成 27 年 12 月 18 日（金）5 限，時事通信出版局から講師を招き，教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は約 70 人。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析，最新教育時事の傾向と対策について，講演をいただいた。参加者からは，「学習方法等，丁寧に教えていただけてよかったです」などの感想が寄せられた。



（2）教採対策講義（教職教養）

平成 28 年 3 月 3 日（木），10 日（木），17 日（木），24 日（木），「教採に向けた教職教養」について講義を行った。参加者は延べ 500 人。参加者からは「やれば力になることが，明確になっていて，これからの学習に結びつきやすい」などの意見が寄せられた。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成27年9月24日（木）に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、（1）観察参加実習を振り返って、（2）3年次の教育実習での心構え、（3）教員という職業についてを中心に、附属新潟小中学校、附属長岡小中学校の教員や学部教員等を講師にガイダンスを行った。参加者は65人。

参加した学生は、観察・参加実習を振り返り、3年次に行う教育実習に向けて、また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

1 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成27年11月24日(火)、企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。参加者は約35人。

講座では、内定者4人による具体的な就活体験談とパネルディスカッション、キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では、企業就職を果たした内定者2人から、就職する企業を志望した理由や具体的な活動の時期や内容について、公務員就職を果たした内定者2人からは、試験勉強の方法、教員採用検査受験・一般企業就活との並行についての具体的な話があった。

続いて、株式会社マイナビの藤井氏から就職決定と活動の進め方のアドバイスがあった。

パネルディスカッションでは、「業界研究・企業研究・官公庁研究はどのようにすすめたか」、「就職活動や受験が始まる前の就職活動や受験のイメージと就職活動や受験が終わった後の就職活動や受験のイメージはどう変わったか？」などについて意見が交わされた。最後に、キャリアコンサルタントから、キャリアセンターの活動についての紹介、自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスがあった。

参加者からは、「公務員・民間どちらの話も聞くことができよ経験となった」、「教育学部生が就職を目指す上で大切なことを聞けてよかった」などの意見が寄せられた。



3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

1 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」(「教職理解特別講座応用コース」第12回)

日時：平成27年11月5日(木) 16:25～17:55

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、高橋雄一全学教職支援センター特任教授から、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス(学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp)に随時送信を行った。

2 平成28年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」(登録者数47人)をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の12自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会及び各教育事務所等、並びに山形県、福島県、長野県、埼玉県及び富山県教育委員会へ、全学教職支援センター教員が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当教員
新潟県教育委員会	平成27年12月8日(火)	川端特任教授 林特任教授
新潟市教育委員会	平成27年12月2日(水)	津野客員教授
下越教育事務所	平成27年12月8日(火)	川端特任教授
中越教育事務所 上越教育事務所	平成27年11月27日(金)	高橋特任教授
新潟県私立中学高等学校協会事務局	平成27年12月8日(火)	林特任教授

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

1 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成 27 年 5 月 1 日（金）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は 126 人。

ガイダンスは、(1) 新潟市小学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、(2) 大平准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意、具体的なアドバイスおよび教員採用検査対策支援プログラムなど大学のサポートの説明、(3) 全学教職支援センター高橋特任教授から、自己PRカード記入上の留意点の説明などが行われた。

参加者からは、「教採経験者の先生のよりリアルな話や教職支援のエキスパートの方から指導が頂けてとても心強かった」「願書の書き方や勉強の進め方、今やっておかなければならないことがわかり、教採への士気が上がった」などの感想が寄せられた。

2 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成 27 年 10 月 14 日（水）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。参加者は 80 人。

ガイダンスでは、(1) 全学教職支援センター川端特任教授から「教職理解特別講座」の説明、(2) 昨年度教育学部卒業生で県内の小・中学校で活躍している先輩 2 人から教員を目指すにあたっての体験談発表、(3) 大平准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。

参加者からは、「実際に教師になった先輩の話は具体的でためになった」「今何をどのように勉強すればいいのかヒントを得て、改めて教員になりたいと思った」など、教員採用検査に向けて決意を新たにしようであり、今後も教育学部として現場で活躍する先輩方の話を聞く機会を増やしていきたいと考えている。



3.7 教員採用・就職活動バス支援

教員採用及び就職活動支援として、新潟県・新潟市との併願が可能な「東京」、「愛知・名古屋」の教員採用試験の日程に合わせてバスの運行を支援する、「教採バスツアーin 東京」、「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」、東京都教育委員会が主催する「東京の学校見学会」への経費支援を行った。

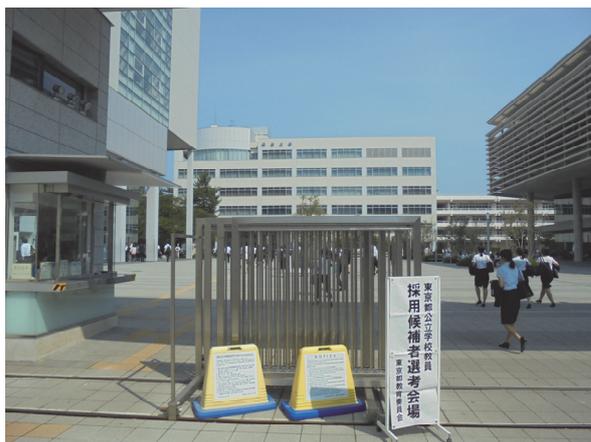
参加者からは、「交通費の一定額の補助など金銭的支援は助かる」などの意見・感想が寄せられた。

1 教採バスツアーin 東京

平成 27 年 7 月 11 日（土）～13 日（月）（参加者 26 人）

2 愛知・名古屋への教採・就活バス支援

平成 27 年 7 月 17 日（金）～19 日（日）（参加者 7 人）



3 東京学校見学会参加支援

4 人より申請があったが、開催元での定員に達したため参加はなかった。

3.8 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページの就職情報ページには、教員や公務員、一般企業への就職を希望する学生向けに、教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘話など、教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページURL :

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo, the text '新潟大学 教育学部 FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY', and a search bar. Below the header is a navigation menu with icons for Home, Faculty of Education, Faculty of Education Research, Faculty of Education Alumni, Faculty of Education Special Programs, Affiliated Schools, Admission Information, Career Information, Publications, and Access. The main content area is titled '就職情報' (Job Information) and contains several sections: '就職実績' (Job Achievement) with links for graduates' job status, industry-specific career paths, and main job destinations; '就職にむけて' (Towards Job) with links for faculty recruitment, public service, and general industry; '就職体験記' (Job Experience Stories) with links for years 2013, 2012, 2011, and 2010; '教員採用検査(面接)内容調査 (学内限定情報)' (Faculty Recruitment Exam (Interview) Content Survey (Campus-Limited Information)) with links for years Heisei 27, 26, 25, 24, and 23; and '就職支援活動' (Job Support Activities) with a link for faculty recruitment. The right sidebar features a yellow box for '東日本大震災への対応' (Response to Great East Japan Earthquake), a '塩野文庫' (Shiono Bunko) section, a '新潟大学創立60周年 教育学部創立135周年 記念写真集' (60th Anniversary of Niigata University / 135th Anniversary of Faculty of Education Commemorative Photo Album), a '教育学部 学部案内' (Faculty of Education Department Guide), and a '新潟大学' (Niigata University) logo.

3.9 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用者が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



教職サポートルーム (101 講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

4. 平成27年度 学部FD

- 第1回 日時 5月14日(木) 13時30分～14時30分
会場 大会議室
内容 「学生支援相談ルームの現状」
講師 布施 直美(教育・学生支援機構 教育支援センター学生相談部門 准教授)
榎谷 晶子(教育・学生支援機構 教育支援センター学生相談部門 特任助教)
- 第2回 日時 6月11日(木) 15時20分～16時20分
会場 大会議室
内容 「学生のアクティブラーニングを実現する大学講義」
講師 土佐 幸子(新潟大学教育学部 教授)
- 第3回 日時 9月10日(木) 13時00分～13時30分
会場 大会議室
内容 「科研費制度の概要と申請について」
講師 久間木 寧子(新潟大学研究推進課・研究企画室 特任専門職員)
長谷川 佐知子(新潟大学研究推進課・研究企画室 特任専門職員)
- 第4回 日時 9月10日(木) 13時30分～14時30分
会場 大会議室
内容 「西内野小学校地域と学校パートナーシップ事業」
講師 川村 千恵子(新潟市立西内野小学校 教頭)
山岸 則子(地域教育コーディネーター)
八坂 絵里子(地域教育コーディネーター)
- 第5回 日時 10月8日(木) 13時00分～14時30分
会場 303講義室
内容 「AEDの利用について」
講師 日根 久志(日本赤十字社新潟県支部)
- 第6回 日時 11月12日(木) 13時00分～14時30分
会場 大会議室
内容 「NBASとその運用について」
講師 後藤 康志(教育・学生支援機構 教育支援センター准教授)
- 第7回 日時 12月1日(火) 16時30分～18時00分
会場 105講義室
内容 「小中一貫教育をめぐる議論の状況について」
講師 世取山 洋介(新潟大学教育学部 准教授)
櫻井 昭(民間ボランティア 心と学びの相談・支援センター 代表)
- 第8回 日時 12月10日(木) 13時00分～14時30分
会場 大会議室
内容 「道徳の教科化と教員養成の課題」
講師 世取山 洋介(新潟大学教育学部 准教授)

5. 地域貢献

5.1 平成27年度 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の概要

1 平成27年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」(以下「12年研修」と称する)は、平成27年度で12年目を迎えた。

(1) 日程

平成27年度の「12年研修」の活動日程は下表のとおりである。

日程	研修内容	場所等
6月4日	センター・学部の事前打合せ	教育学部
7月27日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月7日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月24日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	受講者毎の「校内授業研修」	受講者の各学校
10月～12月	「研修のまとめ」	代表者の学校等

6月の事前打合せで、新潟市立総合教育センター(新潟市教育委員会を含む)指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間にわたって実施され、各受講者の授業課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループ毎に「研修のまとめ」を実施した。

(2) 受講者・指導者・グループ編制

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。(括弧内は、昨年実績)

教科名	受講者数	グループ数	指導主事等数	学部教員数
国語	16 (15)	4 (4)	4	4 (4)
社会(生活と合同)	3 (5)	1 (2)	1	1 (2)
算数・数学	28 (14)	5 (3)	8	5 (3)
生活(社会と合同)	0 (1)	0 (0)	0	0 (0)
理科	4 (5)	1 (2)	2	2 (2)
英語	8 (4)	2 (1)	2	2 (1)
音楽	4 (4)	1 (1)	1	1 (2)
図工・美術	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)
技術	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)
家庭	1 (0)	1 (0)	1	1 (0)
保健体育	6 (6)	2 (2)	2	4 (4)
特別支援	9 (7)	2 (2)	2	2 (2)
合計	79 (61)	19 (17)	23	22 (20)

9教科に小中合同で19班・1班1～6名程度のグループを編制し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制をとった。

理科、保健体育のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もあった。これらの教科では常時複数名が参加し、受講者の研修内容に応じて、指導・助言を行った。

受講者数は79名であり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導が行き届くようになっている。

2 「12年研修」の新たな取組に向けて ～ 学部「養成」と現職「研修」の連携等 ～

4年前から新たな取組として、教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。9月から12月に実施される代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に、学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会を設けた。教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようになった。平成27年度は、学部・院生計202名の参加があった。

5.2 市民・教員を対象とした公開講座

新潟大学では、広く地域に生涯学習の機会を提供することを目的として、毎年公開講座を開講しています。
教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、本学部の特色を生かした講座を開講し、受講者から好評を博しています。

平成27年度 公開講座一覧

No	講座名	日程	対象	講師名	受講者数
1	ウォーキング指導者のためのワークショップ ーウォーキングのためのアライメント チェックと修正プログラムー	10月18日(日)	ウォーキング指導者	教授 篠田 邦彦 非常勤講師 篠田 浩子	30人
2	楽しみながら上達する卓球教室	11月14日(土) ～11月29日(日) (隔週の土日)	市民一般	教授 牛山 幸彦	60人

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成 23 年 4 月に締結した連携協定にもとづき、平成 27 年 12 月 15 日「平成 27 年度 新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会」を開催した。

新潟大学教育学部の現状、平成 27 年度教員採用状況及び平成 28 年度以降教員採用の見通し、学校現場が抱える教育課題などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成 27 年 11 月 19 日、新潟市教育委員会との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部の現状、平成 27 年度教員採用状況及び平成 28 年度以降教員採用の見通し、学校現場が抱える教育課題、現職教員研修の在り方などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・見附市教育委員会との連携事業

平成 17 年 3 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内すべての小中学校及び特別支援学校（小学校 8 校、中学校 4 校、特別支援学校 1 校）に学習支援（自然教室、水泳教室、補充学習、部活動指導、実験、工作教室など）のためのボランティアを 7 人派遣した。

また、見附市内の小・中学校 13 校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を 13 名派遣した。

・三条市教育委員会との連携事業

平成 17 年 8 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小学校 2 校、中学校 2 校）」へ 2 人を派遣した。

また、三条市教育委員会と 8 回目となる連携協議会の開催を次年度開催とした。

・燕市教育委員会との連携事業

平成 23 年 3 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」の募集を行った。市内小学校 4 校に 43 人、中学校 4 校に 35 人、市教育委員会の事業「小学校 5 年生～中学校 3 年生の希望者が参加する英語教室」（Jack&Betty 教室）に 1 人のボランティアの派遣を行った。

5.4 平成27年度 新潟大学免許法認定公開講座実施状況

講座名	キャリア教育特論
講師名	松井 賢二 (教育学部教授)
実施日程	8月19日(水) 8月20日(木) 8月21日(金) 8月22日(土)
時間数	30時間 (15 コマ)
募集人員	20 人
受講者数	5 人

5.5 委員就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『「地域に根ざすキャリア教育推進会議」座長』
- 『新潟県名勝調査指導委員会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『スーパー食育スクール事業推進委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会・同ワーキングチーム会議委員』
- 『新潟県子どもの貧困対策推進計画検討委員会委員』
- 『新潟県幼児教育の振興に関する政策プログラム策定委員会委員』
- 『特別支援学校就労支援検討委員会委員』
- 『新潟県健康づくり推進懇談会委員』
- 『新潟県名勝調査指導委員会委員』
- 『新潟県スポーツ推進審議会委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市景観アドバイザー』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市西区自治協議会委員』
- 『第5期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『新潟市人権教育・啓発推進委員会委員』
- 『新潟市スポーツ推進審議会委員』
- 『いじめ防止対策等専門委員会委員』
- 『新潟市就学支援委員会委員』

『新潟市環境審議会委員』
『中央区就学支援委員会委員』

長岡市

『人権懇談会委員』

燕市

『燕市障がい者自立支援協議会療育支援専門部会委員』
『第2次教育基本計画検討委員会委員』

三条市・三条市教育委員会

『三条市教育事務点検評価委員』
『三条市小中一貫教育推進委員会委員』
『三条市学校適正規模検討委員会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

村上市教育委員会

『村上まつり調査指導会議専門調査員』

佐渡市教育委員会

『佐渡市名勝保存管理計画策定会議』

文部科学省

『キャリア教育に係る中核的な時間の在り方に関する研究審査委員会委員』
『「我が国の伝統・文化教育の充実に係る調査研究」企画評価委員』

国土交通省国土地理院

『平成27年度治水地形分類図の更新（北陸地区）治水地形判定委員会委員』

上越教育大学

『上越教育大学 CST 養成事業実施委員会委員』

独立行政法人 海洋研究開発機構

『地球掘削科学推進委員会掘削航海専門部会委員』

公益財団法人 新潟県体育協会

『スポーツ医科学委員会委員』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団

『理事』

財団法人 會津八一記念館

『評議員』

社会福祉法人 輝風会

『理事』

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

『新潟市ボランティア市民活動支援センター運営委員』

社会福祉法人 新潟地区手をつなぐ育成会

『理事』

西日本高速道路株式会社

『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

2015 年度国際交流事業

—北京師範大学珠海校および北京聯合大学訪問交流事業

今年度は12月7日から14日の8日間で行われた。本事業は比較文化論、比較制度論、多文化共生実習6単位の講義である。参加者は、学生40名 引率教員8名であった。中国側の参加者は2大学教員25名、学生は大体300名、附属教員は100名を越えた。

本事業はアジアの教育文化を現地に訪問して学び、参加学生の国際認識力の向上を基本目的とする。内容は次のように構成されている。①北京師範大学珠海校で新潟の伝統文化および新潟の教育の特色を新潟大学の学生が報告し討論する。また師範大学学生が広東省の文化や教育の特徴を報告し討議する。②北京師範大学附属南澳実験学校および惠州実験学校を訪問し、日本紹介の授業を行い、それをもと附属実践小学校の教員と討議する。③北京聯合大学国際交流学院を訪問し、聯合大学の国際交流活動について講義を受ける。④北京市及び広州市の歴史遺産をテーマにそくして見学する—今年度のテーマは中国の近代—であった。⑤帰国後 2月北京師範大学珠海校教員が新潟大学を訪問し、学生に講義を行う。今年度は2月3日から5日まで呉忠魁教授他3名の教員が講義を行った。参加学生は20名だった。

今年度は特に惠州実験学校の訪問時が、ちょうど実験学校の研究会と重なり、惠州市の教職員250名が国際交流事業を参観し、検討会に参加したため、例年になく盛り上がった。また附属南澳学校では北京師範大学珠海校教育学院学生が120人参加したため、検討会の時間がとても充実したものになった。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

○学術交流（研究者派遣）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	韓国	2015年夏季ユニバーシアード開催都市Inspection Visit	2015/4/4	2015/4/9	国際大学スポーツ連盟
教授	相庭 和彦	中国	2015年度国際交流授業の打ち合わせ，研究調査の準備会議	2015/4/11	2015/4/19	本人負担
教授	牛山 幸彦	中国	14th ITTF Sports Science Congress and 5th World Racquet Sports Congress出席，2015世界卓球選手権蘇州大会視察	2015/4/22	2015/4/28	教育研究基盤経費
教授	麓 慎一	中国	「近代新潟における北洋漁業の展開と中国市場」についての研究	2015/5/2	2015/7/31	新潟大学在外研究制度（新潟大学研究支援経費）
教授	清水 研作	ドイツ	ルールピアノフェスティバルにおける自作品の発表等	2015/5/6	2015/5/10	本人負担
教授	五十嵐 久人	モンゴル	アジア大学スポーツ連盟（AUSF）理事会出席	2015/5/22	2015/5/25	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：モンゴル大学スポーツ連盟
准教授	雲尾 周	中国	集中講義・附属学校見学他	2015/6/4	2015/6/10	本人負担
教授	相庭 和彦	中国	集中講義・附属学校見学他	2015/6/5	2015/6/10	本人負担
准教授	杉澤 武俊	中国	集中講義・附属学校見学他	2015/6/5	2015/6/9	本人負担
准教授	山口 智子	タイ	RGJ-Ph. D. Congress XVIへの出席，カセサート大学訪問	2015/6/9	2015/6/17	先方負担
教授	五十嵐 久人	韓国	夏季ユニバーシアードGwangju2015大会統括運営，理事会，総会	2015/6/28	2015/7/15	渡航費：国際大学スポーツ連盟（FISU） 滞在費：夏季ユニバーシアードGwangju2015組織委員会
講師	檜皮 貴子	フィンランド	第15回世界体操祭参加	2015/7/11	2015/7/20	本人負担
教授	小久保 美子	アメリカ合衆国	ILA2015 Conference & Exhibits 出席	2015/7/15	2015/7/21	科研費基盤研究（C）
准教授	足立 幸子	アメリカ合衆国	International Literacy Association年次大会出席	2015/7/16	2015/7/22	科研費基盤研究（C）
教授	佐藤 亮一	イタリア	2015地球科学及びリモートセンシングに関する国際会議参加，研究成果発表，最新技術の動向調査（資料収集）	2015/7/23	2015/8/1	科研費基盤研究（C）
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国，中国	アクティブラーニングに関する研究成果発表，海外研究者との交流	2015/7/26	2015/8/13	科研費基盤研究（B）
准教授	前田 洋介	イギリス	英国の自治体内分権と地域住民組織に関する調査，研究打ち合わせ	2015/7/29	2015/8/11	研究助成（公財） 国土地理協会

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	小野 映介	メキシコ合衆国	シロアリを利用した持続的土地・資源利用の環境地理学的研究に関する調査	2015/8/6	2015/8/14	科研費基盤研究 (B) 代表:野中健一 (立教大学)
教授	佐藤 亮一	シンガポール	第5回合成開口レーダに関するアジア・太平洋国際会議 (APSAR2015) 参加, 研究成果の発表, 最新技術の動向調査 (資料収集)	2015/8/31	2015/9/5	科研費基盤研究 (C)
准教授	小林 繁子	ドイツ	史料調査	2015/9/4	2015/9/30	科研費基盤研究 (若手B)
准教授	工藤 起来	台湾	調査予定地の視察, 研究打ち合わせ	2015/9/7	2015/9/11	教育研究基盤経費
教授	笠井 直美	タイ王国	科学研究費補助金 (基盤研究C) 「性犯罪被害対策及び人工妊娠中絶防止の緊急避妊薬情報を含む学校での性教育方法の検討」に関する調査, 打ち合わせ	2015/9/14	2015/9/19	科研費基盤研究 (C)
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究	2015/9/17	2015/9/26	科研費基盤研究 (B)
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究 (S) (代表:保谷徹) のための調査と史料収集	2015/9/26	2015/10/5	科研費基盤研究 (S) 代表:保谷徹 (東京大学)
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	授業研究に関するデータ収集, 研究打ち合わせ	2015/10/11	2015/10/16	科研費応募支援経費 (新潟大学研究支援経費)
教授	五十嵐 久人	スイス	国際大学スポーツ連盟総会	2015/11/5	2015/11/10	国際大学スポーツ連盟
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B (海外) のための調査, 史料収集	2015/11/14	2015/11/25	科研費基盤研究 (B) (海外)
教授	牛山 幸彦	韓国	アジア大学スポーツ交流プロジェクト (Sports for P. E. A. C. E.) への参加	2015/11/17	2015/11/20	渡航費:教育研究基盤経費 (体育共通) 滞在費:漢陽大学
教授	五十嵐 久人	韓国	アジア大学スポーツ交流プロジェクト (Sports for P. E. A. C. E.) への参加	2015/11/17	2015/11/20	渡航費:教育研究基盤経費 (体育共通) 滞在費:漢陽大学
教授	郷 晃	ドイツ, チェコ, オーストリア	地域美術論、地域芸術研究における美術研修旅行のための学生引率	2015/11/30	2015/12/9	グローバル人材育成支援経費 教育研究基盤経費
教授	佐藤 哲夫	ドイツ, チェコ, オーストリア	地域美術論、地域芸術研究における美術研修旅行のための学生引率	2015/11/30	2015/12/9	グローバル人材育成支援経費 教育研究基盤経費
准教授	小野 映介	ラオス人民民主共和国	ラオスビエンチャン近郊農村におけるアリ塚形成に関する地形・地質学的調査	2015/11/30	2015/12/7	科研費基盤研究 (B) 代表:野中健一 (立教大学)
准教授	足立 幸子	アメリカ合衆国	Literacy Research Association 第65回年次大会出席	2015/12/1	2015/12/7	科研費基盤研究 (C)
准教授	雲尾 周	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/7	2015/12/14	教育研究基盤経費
教授	伊野 義博	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/7	2015/12/14	本人負担

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	相庭 和彦	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/7	2015/12/14	教育研究基盤経費
教授	向山 恭一	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/7	2015/12/14	教育研究基盤経費
准教授	杉澤 武俊	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/7	2015/12/14	教育研究基盤経費
教授	宮菌 衛	中国	附属新潟小学校と北京師範大学珠海分校・実験小学等との教育研究交流	2015/12/9	2015/12/14	教育研究基盤経費
准教授	中島 伸子	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との交流事業	2015/12/9	2015/12/14	教育研究基盤経費 教育研究活動等支援経費
教授	麓 慎一	イギリス	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査, 資料収集	2015/12/14	2015/12/20	科研費基盤研究(B) (海外)
教授	清水 研作	アメリカ合衆国	作曲に関する資料収集及び発表の打ち合わせ	2015/12/19	2016/1/4	本人負担
教授	五十嵐 久人	韓国	AUSF理事会及びフォーラムへの出席	2015/12/28	2015/12/31	渡航費:日本オリンピック委員会 滞在費:韓国大学スポーツ連盟
教授	横坂 康彦	アメリカ合衆国	音楽マネジメントに関する施設見学, 事業視察, 資料・教材の収集	2016/1/3	2016/1/10	本人負担
教授	丹治 嘉彦	ポーランド	アウシュビッツ強制収容所の調査, 中央ヨーロッパの街並と美術の調査	2016/2/6	2016/2/11	教育研究基盤経費
准教授	小林 繁子	ドイツ	国際学会Arbeitskreis interdisziplinäre Hexenforschungでの研究発表(演題:Der Begriff des Gotteszorns in den Hexenprozessen), 資料調査	2016/2/17	2016/2/24	科研費基盤研究(若手B)
准教授	田中 咲子	オーストリア	学会参加(16. Österreichischer Archäologentag)	2016/2/26	2016/3/2	渡航費:科学研究費及び教育研究基盤経費 滞在費:教育研究基盤経費
准教授	前田 洋介	イギリス	英国の都市内分権と地域住民組織に関する調査, 研究打ち合わせ	2016/2/29	2016/3/10	渡航費:科研費基盤(B) (代表:山崎孝史) 滞在費:一部, 研究助成(公財)国土地理学会
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟理事会出席	2016/3/2	2016/3/7	国際大学スポーツ連盟
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	大学物理授業改善プロジェクトの一環として米国大学訪問, 講義参観, 協議	2016/3/7	2016/3/22	科研費基盤研究(B)
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査, 資料収集	2016/3/13	2016/3/31	科研費基盤研究(B) (海外)
教授	小林 日出至郎	ギリシャ	「ホメロスの運動競技」に関する視察及び研究資料調査	2016/3/17	2016/3/23	科研費基盤研究(C)

○学術交流（研究者受入れ）

職名	氏名	所属	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	Sönke Rollenske	メルバーク大学	講演及び研究打ち合わせ	2016/3/19	2016/3/27	科研費基盤研究（C） 代表：長谷川敬三
教授	Claude LeBrun	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	講演及び研究打ち合わせ	2016/3/19	2016/3/26	科研費基盤研究（C） 代表：長谷川敬三
客員教授	Florin Belgun	フンボルト大学	研究打ち合わせ	2016/3/21	2016/3/26	科研費基盤研究（C） 代表：長谷川敬三

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「学びをつなぐ力を高める授業 ―3年次研究―」の下で、指定研究授業（18回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から2,000名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要第72集 学びをつなぐ力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（Fねっと+）」（年3回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生15名、5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生77名、9月7日～11日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生38名 6月8日～19日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、大学院生、別科生38名 10月26日～11月6日）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

a. 小中9か年を見通した教育活動

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別統一一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を図る。

b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
- ・文化祭（附属アートミュージアム）での特別支援学校生徒作品の展示。

c. 異文化交流活動

- ・平成27年6月1日～3日に、新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大実験小学から校長をはじめ、計5名の職員が来校。学習参観と教育協議会を開催。外国語活動及び情報教育について協議を行った。
- ・平成27年12月9日～13日の行程で、校長及び当校教職員1名が、新潟大学の訪問団の一団として交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学を訪問。教職員の教育フォーラムを開催し、英語教育及び音楽をはじめとする芸術教育に関する協議を行った。
- ・平成27年2月4日～5日に開催した初等教育研究会に、北京師範大学珠海分校から副校長をはじめ、述べ26名の職員が参加し、公開授業及び教育協議会を参観した。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・道徳や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。また、初等教育研究会において授業を公開し、研究協議会を開催した。
- ・学校保健委員会において、新潟大学医歯学総合病院 渡邊 慶 講師より「整形外科領域からみる子どもの成長発達」の演題で講演いただいた。
- ・児童会保健委員会と連携して、感染予防の啓発活動を行った。
- ・体育や特別活動等の時間を活用して、養護教諭の協力を得て学級担任が授業を実施した。

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会など各種大会入賞多数
- ・第47回ジュニア展，第11回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール最優秀賞受賞
- ・第61回青少年読書感想文コンクール学校図書館協議会賞，第65回全国小・中学校作文コンクール優良賞受賞
- ・いきいきわくわく科学賞2016県奨励賞受賞
- ・第51回新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数

⑥ その他

- ・当校教員の学部授業への参加：5名11回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：14名46回
- ・教員研修の受入：初任者研修1回，新潟市教職員研修1回
- ・視察受け入れ：11回（北海道，千葉，鳥取，石川，埼玉，大阪，広島，山梨，東京より）

(2) 研究会，講演会の開催

① 平成27年度附属新潟小学校中間検討会

- 日時 2015年9月30日（水）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業－3年次研究－」
- 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約90名

② 平成27年度初等教育研究会

- 日時 2016年2月4日（木）・5日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業－3年次研究－」
- 内容 CCT・公開授業・全体会・シェアリングタイム・フォーラム・シンポジウム
フォーラム1「附属新潟式学級力フォーラム」：
講師 上越教育大学 教授 赤坂 真二
フォーラム2「附属新潟式学習スキルフォーラム」：
講師 新潟大学教育学部 准教授 一柳 智紀
フォーラム3「附属新潟式情報リテラシーフォーラム」：
講師 東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也
シンポジウム「次期指導要領で求められる授業づくり」
シンポジスト 国立教育政策研究所 中等教育研究部 総括研究官 白水 始
慶應義塾大学 教職課程センター 教授 鹿毛 雅治
東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,500名（延べ約2,100人）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第73集 学びをつなぐ力を高める授業－3年次研究－』（年1回発行）
- 『授業の研究（Fねっと+）』（第194号，第195号，第196号：年3回発行）
年間テーマ「学びをつなぐ力を高める授業Ⅲ」
毎号の特集「今，求められるアクティブ・ラーニングとは」「資質・能力を育む授業作りとは」「どうなる？これからの道徳・外国語」

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・笠原壮史「子どもが主体的に音楽に関わっていく授業」、『教育音楽2月号 ー附属学校通信ー』2016年1月（音楽之友社）
- ・安藤 達郎「わたしの授業実践 5年 もののとけ方」,平成27年9月1日（小学校理科通信 こぼ 2015年秋号 教育出版株式会社）
- ・劔仁美「レゴブロックで資料の場面を再現することを通して、道徳性を養う指導」2015年6月28日（東京学芸大学, 日本道徳教育学会）
- ・劔仁美「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れた道徳授業 『道徳教育』2015年12月号,（明治図書）
- ・越村 尚貴「教科特集算数科 九九のきまり」,『小二教育技術12月号』,2015年11月（小学館）
- ・片山敏郎「教育ICTの取り組みの変化」iTeachersカンファレンス,2015年4月26日
- ・片山敏郎「教師用デジタル教科書の効果的な活用」『指導と評価』2015年5月号（日本図書文化協会）
- ・片山敏郎「これからの学力形成と情報リテラシー」燕市立吉田南小学校 ICT研修会,2015年5月29日
- ・片山敏郎「アクティブ・ラーニングをうむためのICT環境整備で大切なたった一つの要件」2015年6月（教育新聞）
- ・片山敏郎「これまでの5年,これからの5年 タブレット活用の論点整理」古河市教育シンポジウム（茨城県）,2015年7月25日
- ・片山敏郎「小学校におけるタブレット端末の活用のこつ」小学校におけるタブレット端末活用講座（鳥取県教育センター,2015年7月28日）
- ・片山敏郎「タブレット端末と思考スキル」北海道メディア研究会,2015年8月10日
- ・片山敏郎「全校体制での情報リテラシー教育の推進」日本デジタル教科書年次大会,2015年8月11日
- ・片山敏郎「学校レベルでの情報リテラシーの育成について」教育情報学会・シンポジウム（茨城大学）,2015年8月31日
- ・片山敏郎「タブレット端末を活用した授業づくり」ICT教育研修会（山形県教育センター）,2015年9月9日
- ・片山敏郎「次期学習指導要領改訂で目指す学力と情報リテラシー」iTeachersTV,2015年10月
- ・片山敏郎「学習者用デジタル教科書の効果」『学習情報研究』,2015年11月号（学習ソフトウェア情報研究センター）
- ・渋谷美和子「教育実習における学習過程へのアプローチ ー教師としての学びの充実に向けてー」日本教育心理学会・シンポジウム指定討論,2015.8.24~25
- ・三星雄大「実社会に生きて働く資質・能力を育成する生活科を目指して」生活科・総合的な学習の時間シンポジウム in 神奈川,2016年2月11日

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」の推進

ア 研究の内容

生徒が状況に応じて使えるようになっている個々の思考操作を「思考のすべ」と定義し、「思考のすべ化」を図るために、全教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動において、実践研究を行う。

<今年度研究で目指す生徒の姿>

重点① 活発な思考操作によって課題解決をし、『学ぶ喜び』を実感・納得する姿

重点② 獲得した学習内容の意味やよさを再確認することで、教科、領域の横断的な思考のすべのよさを実感・納得する姿

<目指す姿を実現するための三つの視点>

視点A：思考のすべ化やよりよい課題解決に向かうための振り返り活動の組織（メタ認知）

視点B：生徒が本気で思考するような現実味のある状況設定（パフォーマンス課題）

視点C：生徒同士の関わりの質的向上をめざした活動の組織（対話）イ 研究の実際

重点①の実現に向けて

<視点Aより>

生徒にとって、文化的参画、社会的参画につながるような意味ある文脈での課題をもてるような働き掛けをする。

<視点Cより>

互いの考えを視覚することで、考えの違いを大切にしながら新しい見方、考え方、価値を創造する対話を促す。

<視点Cより>

各教科・領域における課題解決の際中や課題を解決した後で、自らの思考を振り返って、有効にはたらいだ思考方法や学習法力を「すべカード」に記述して保存する活動を組織する。

重点②の実現に向けて

<視点Cより>

各教科・領域で課題解決についてのメタ認知を促し、生徒は有用だと思った思考操作や思考を促す学習方略を「すべカード」に記録する。そのカードを総合的な学習の時間の「思考」の授業において、各自が有効性の似ているカードを教科・領域の枠を超えてグルーピングし、見いだしたよさについて仲間同士で交流する活動を組織する。

ウ 成果と課題

<成果>

○ 現実味のあるパフォーマンス課題によって、既有体験や既習内容を総動員して思考を深める課題解決をすることで、学習内容と社会とのつながりを実感・納得することができた。

○ 自らの考えや思考過程を可視化したものをもとに仲間との違いや発見を交流検討する活動を通して、学習内容に対する認識や自分自身の見方、考え方に対する捉えを新たにすることができた。

○ 「すべカード」「すべシート」の活用により、獲得した学習内容の意味やよさを再確認するとともに、教科、領域の横断的な思考のすべのよさを実感・納得することができた。

<課題>

○ 生徒の見いだした思考のすべ（すべカード）から、当校としての資質・能力を導き出す。

- ② 平成27年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）
- a. 期 日 10月16日（金）
- b. 内 容 授業公開（国語，社会，数学，理科，英語，音楽，美術，保健体育，技術家庭，道徳，特別活動，総合学習）
授業協議会
- c. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計 534 人
- ③ その他
- a. 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修1）
- ア. 期 日 6月16日（火）
- イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 中学校15人，特別支援学校6人
下越教育事務所指導主事，当校職員
- ウ. 内 容 授業公開（各教科），研究協議，講話
- b. 学校視察の受け入れ
- ・ 山形県米沢市立第三中学校 教諭2人（6月25日）
 - ・ 岐阜県可児市立楚南中学校 教諭1人（2月19日）
- (4) 研究報告等
- ① 研究誌
- a. 研究紀要 「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」（3年次）
- b. 公開授業案 （10月16日発行）

7.3 附属特別支援学校

1 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童（授業交流）
- ・小学部5，6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部特別支援教育専修と新潟市教育委員会特別支援教育担当指導主事とともに研究授業協議会の実施
- ・新潟市内小・中学校主催支援会議への参加 30校延べ90回
- ・新潟市教育委員会と連携して、「新潟市発達障がいサポート事業」の実施

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習に，管理職のほかにゲストスピーカーとして教諭1人参加
- ・学生ボランティアの登録：登録56人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会10人，特別支援教育研究会53人
すなやま祭35人，学部・学級行事30人

【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催
- ・保護者有志が教育学部学生や院生と連携して運営する放課後活動（アフタースクール）への支援，会場提供：月3回程度実施，研究会とすなやま祭での発表と作品展示

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会(同窓会)の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
(8月22日開催。高等部生徒30，卒業生67，卒業生保護者30，旧職員5人
現職員30人参加)
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定
(1月30日開催。卒業生62人，卒業生保護者31人参加)

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ(すなやまの家を会場に提供)
延べ約2,900人利用
- ・新潟市障がい者の進路を考える会体験会(9月5日)
児童生徒，保護者，各福祉事業所・各校担当職員，当校職員合わせて370人参加

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生33人週1回定期支援，2人不定期支援
- ・教育相談：不定期は多数
- ・研修支援：新潟市発達障がいサポート事業報告会・通級指導教室説明会の実施(2月18日)

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- | | |
|-------------------|--------------|
| ・下越地区特別支援教育研究大会 | 水谷 武 |
| ・県立教育センター研修会講師 | 大谷 誠，齊藤 文一 |
| ・県初任者研修講師 | 土田 奈穂 |
| ・新潟市立明鏡高等学校校内研修講師 | 中野 久美，長谷川 理美 |
| ・新潟市立白山小学校校内研修講師 | 中野 久美 |
| ・新潟市立有明台小学校校内研修講師 | 横堀 壮昭 |

- ・新潟市学童保育指導員研修会講師 長谷川 理美
- ・新潟市総合教育センター研修会実践発表 中野 久美
- ・新潟市立山田小学校校内研修講師 本間 学, 安藤 淑美
- ・新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 高橋 悟, 神田 智美
- ・新潟市立松浜小学校校内研修講師 中川 麻子, 佐藤 素之

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生12人(5月23日, 8月20日, 9月11日)
- ・教育実習生の受入(春期：22人 秋期：20人)
- ・養護教諭特別科1日観察参加実習：38人(12月11日)
- ・介護等体験生の受入(年間10回, 合計287人)

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観(6月30日 33人)

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・すなやま祭(学習発表会)
- ・職場実習等(高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定)
- ・修学旅行(中学部3年生：横浜, 東京方面 高等部3年生：関西方面)
- ・校内宿泊学習(全学部実施「すなやまの家」に宿泊)
- ・親子工作教室(小学部PTA)
- ・ボウリング大会(中学部PTA)
- ・スキー・そり教室(全学部)
- ・卒業生を送る会(全学部)

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附連北信越地区研修会金沢大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2 研究会, 公開講座等の開催

(1) 研究会

- ・第38回特別支援教育研究会(12月4日開催)
研究主題：子供が学びを深める姿をめざした授業づくり(第2年次)
～個別の指導計画を活用した支援の追究～
参加者数：464名

(2) 公開講座

- ・4日にわたり4回(6月4日, 17日, 7月1日, 15日)開催
テーマ：「親支援プログラム」
講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授
参加者数：延べ40人

(3) 通級指導教室運営説明会(2月28日開催)

- 参加者数：42名

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んできた。その成果により文部科学省から指定延長を許可され、平成27年度まで継続して取り組むこととなった。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間の一貫教育カリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成と保育者の援助の在り方がどうあるべきかについて、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校低学年との「異年齢協働型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- | | |
|------------|----------------|
| a 入門教育実習 | (10名) |
| b 春期教育実習 | (3名) |
| c 観察参加実習 | (124名) |
| d 秋期教育実習 | (1名) |
| e 他大学の教育実習 | (新潟中央短期大学生 1名) |

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」も行っている。

- | |
|-----------------------------|
| a 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日) |
| b 観客型連携による相互訪問 |
| c 中学生の保育参観、遊びの紹介、おにぎりプロジェクト |
| d 5歳児の小学1・2年生との合同活動(社会創造科) |
| e 研究授業・保育の相互参観 |
| f 授業・保育交流 |

④ 学部との連携

- | |
|---|
| a 教育研究協議会での公開保育・協議会や園内研究保育にかかわり、学部教員からの指導・助言を受ける。 |
| b 校園合同研究にかかわる実態アンケート等の集約・評価における連携 |

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（14名 11月18日～19日）

⑦ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室
 こんにちはの会
 お花見散歩

11月：秋の家族参加日
 作品展

5月：親子バス遠足（自然科学館）

12月：親子餅つき大会

6月：プール開き
 家族参加日（土曜参観）

1月：お正月お楽しみ抽選会
 かるた大会

7月：七夕会

 そり遠足（越後丘陵公園）

9月：校舎合同運動会
 秋の交通安全教室

2月：豆まき会

3月：ありがとうの会（お別れ会）

10月：悠久山探検遠足

（2）研究会、講演会の開催

① 平成27年度教育研究協議会

ア 開催日 平成27年5月27日（水） 幼・小・中合同教育研究協議会

イ 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 名古屋大学名誉教授

安彦 忠彦 様

演題 「幼小中一貫教育の意義と課題」

〈講演会② 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 文部科学省初等中等教育局視学官

津金美智子 様

演題 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方」

※ 講演会①②は、同時開催。参加者が選択して聴取。

② 幼稚園視察等の受入

県内幼稚園新採用教員

新採用教員を10名受け入れ（11月）

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度より3年間、文部科学省研究開発指定を受け、24年度研究成果のまとめ、発表した。その成果が認められ研究開発指定の3年間の延長となった。これまでの指定を含め、平成25年度の研究開発校は計34件、98校となる。その中で延長指定を認められたのは附属長岡校園のみである。第2次研究の研究開発課題は「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」である。研究の概要は幼・小・中12年間で五つの「ステージ」に構成し、各教科と新教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを構築・提案することである。本年度は第2次研究第3年次である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 小中接続期に焦点を当てたカリキュラム開発と小・中の各教科の指導内容の位置付けの検討を通して、幼小中12年間の学びをつなぎ、生かす一貫カリキュラムの開発に取り組む。

イ 子供自らが、主体的に他者との関わりを求め、互恵的にかかわりながら「社会的知性」としての資質・能力を働かせるための「協働型学習」の単元を構成する視点や要素を明確にする。

ウ 「社会創造科」の内容を見直し、異校種間を含めた異学年・異年齢での授業や地域の人材の活用の仕方など、多様な「協働型学習」の在り方と適切な評価方法を開発する。

これらのことを課題として研究を進め、5月27日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。

- ・文部科学省研究開発学校 運営指導委員会2回開催 (9月14日, 11月9日)
- ・新潟大学 高橋姿学長 鈴木賢治学部長等来校, 授業参観(9月8日)



教育研究協議会 全体発表
「社会的な知性を培う」



第3ステージ:理科(3年)
「ものを動か風パワーのみみつ」



第4ステージ:社会科(5年)
「誇りをもって食料生産を支える人々」

また、平成28年1月13日(水)には、文部科学省主催「第12回研究開発学校フォーラム」で、最終年度の研究開発学校として、研究発表を行った。研究の柱である「幼小中の一貫教育カリキュラム」、新設教科「社会創造科」、「協働型学習」の三つについて、約20分間、子供たちの活躍を写真や映像で紹介しながら発表を行った。



「研究開発学校フォーラム」での発表

② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習①サマースクール (1年生12名 6月25日～6月26日)
- 入門教育実習②栖吉川フェスティバル (1年生10名 7月1日)
- b. 観察参加実習(2年生) 63名 9月7日～9月11日)
- c. 春期教育実習(3・4年生及び別科生) 24名 6月8日～6月19日)
- d. 秋期教育実習(3・4年生及び別科生) 24名 10月26日～11月6日)

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、 職員の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

b. 中学校との連携

■「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流

- ・小5年と中1年「持続可能な地域（長岡）を目指して」
- ・小6年と中1年「山古志の人々の生き方から自分たちの生き方を考えよう」



第4ステージ:合同授業



第4ステージ:山古志訪問

④ 大学・学部との連携

a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童・保護者向けの授業

- ・新潟大学教育学部 土佐幸子教授
全学年・保護者対象
「おもしろ科学実験～音の不思議」



土佐幸子教授に「よる「おもしろ科学実験」

b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

2名の大学教員が、研究会当日、授業講座を開催された。

- ・新潟大学教育学部 松井賢二 教授 キャリア教育「キャリア教育ってどんな効果があるの？」
- ・新潟大学教育学部 土佐幸子 教授 5年1組 理科「ライト兄弟はなぜ飛べたのか」

c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科の学生2名から8回にわたって体操の指導を受け、成果を12月5日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5、6年生のスノースクール（1月）では、体育科の学生12名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（98%）。

6月15日（月）



様々な新潟大学の施設を訪問

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

(6月:「道徳」・理科 小学校初任者16名、9月:国語 中学校初任者6名)

免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力

(副校長1名, 研究主任1名担当)

b. 長岡市教育委員会・見附市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(社会, 家庭科)

長岡市教育センター・見附市教育委員会主催・の研修講座の講師として協力した。

(理科, 算数)

c. 公立学校・他附属との連携

長岡市立福戸小学校校内研修に指導者として参加(算数1名)

魚沼市教育振興会算数部研修会に指導者として参加(算数1名)

魚沼市教育振興会「道徳」部研修会に指導者として参加(道徳1名)

柏崎市刈羽郡学校教育研究会算数・数学教育部授業研究に指導者として参加(算数1名)

見附市教育委員会主催出前授業に指導者として参加(国語1名, 算数1名)

小千谷市立小千谷小学校校内研修会に指導者として参加(算数1名)

長岡市立阪之上小学校校内研修会に指導者として参加(算数1名)

広島大学附属三原小学校研究会にシンポジストとして参加(研究主任1名)

公立校教員対象の各教科領域別ミニ講座研修会の講師(各教科領域1~2回講座開催)

全10回開催 延べ参加人数 106名

⑥ 中国との交流

・北京師範大学訪問団受け入れ

・5月27日(水)~28日(木)

附属長岡校園研究協議会視察

長岡市内教育施設視察(子育て支援施設)



北京師範大学訪問団視察

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パクン通信」(食育に関する質問箱)

の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 栄養教諭による講話等

・毎月1回, 中学生への食育講話

・毎日の「食育新聞」の発行(小学校・中学校に掲示)

・学校ホームページブログでの給食レシピの紹介(ほぼ毎日)

・学級担任への食育資料提供

・小学校, 幼稚園の給食試食会での保護者への講話

・教育実習生(別科生)への講話

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成27年度教育研究協議会事前打合せ

- a. 日時 2015年 5月 8日 (金)
- b. 会場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究 第2年次)
- d. 内容 全体会(研究全体概要の説明) 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成27年度教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日時 2015年 5月27日 (水)
- b. 会場 附属長岡校園(幼稚園、小学校、中学校)
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究 第2年次)
- d. 内容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」
 - 講演

名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授

安彦忠彦 氏

演題「幼小中一貫教育の意義と課題」

文部科学省初等中等教育局 視学官、幼児教育課教科調査官

津金美智子 氏

演題「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方」

- e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等
約 1200名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催 北信越地区総会・実践活動協議会 金沢大会

- a. 日時 2015年10月1日(木)副校園長会(市内巡検、研修会・協議会等)
10月2日(金)教育活動・授業公開、協議会、全体会・総会等
- b. 会場 金沢大学附属学校園(幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校)、
「ANAクラウンプラザホテル金沢」
(＊副校園長会 兼六園、21世紀美術館、湯涌温泉「山音」)
- c. テーマ 「魅力ある附属学校園の実現をめざして
～家庭・附属学校園・大学との連携を通して～」
- d. 内容 保育・授業公開、協議会および全体会・総会、情報交換会・懇親会
- e. 参加者 約300名 ＊校長、副校長、教諭、PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第2次研究 第2年次』(年1回発行)
- b. 『子どもと授業』(年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名)
 - 第75号 特集 資質・能力をはぐくむ一貫教育の推進
 - 第76号 特集 21世紀に求められる「協働」の学び

② 教員の著書・論文・研究発表等(略)

(4) その他

① 危機管理に対する活動

- a. 大規模災害を想定した引き渡し訓練（2年目）
保護者へ引き渡しマニュアルの説明
児童引き渡し訓練の実施
- b. 不審者侵入対応避難訓練（11年目）
職員の対応訓練と児童の避難訓練
（指導・協力：長岡警察署生活安全係）
- c. 緊急電話連絡・メール配信訓練
- d. 水泳授業監視員の配置
- e. インストラクターによる着衣泳指導

② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

- a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業
「ふぞく百年の森」整備作業、校園インディアカ大会

⑤ 学習環境の整備

- a. 普通教室にエアコン設置（リース契約による設備整備
諸経費は保護者負担による）



児童引き渡し訓練



インストラクターによる着衣泳



PTA「同心」環境整備作業

7.6 附属長岡中学校

- (1) 平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」を開発している。この研究は、子どもと子ども、子どもと地域の人が共に学びを創り上げる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含め他各教科・領域を通して「持続可能な社会」の形成者をはぐくむことを目指して、第2次研究のまとめの段階に入っている。

<社会創造科>

「社会的な知性」を「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」の三つの資質・能力として捉え、それを効果的にはぐくむのに必要不可欠な教科として「社会創造科」をカリキュラムに位置付けている。そこでは、校園内の異年齢の児童生徒はもちろん、企業、NPO、行政、地域の専門家の方々と互恵的にかかわりながら、身の回りや地域にある問題や課題について調べ、解決方法を考え、実際に行動し評価する活動を展開している。

- (2) ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本校では、「持続可能な社会の在り方」をテーマに、社会創造科に置いて、郷土長岡と大都市東京を比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を海外に広げた同様の追究学習（第2学年）に取り組んでいる。生徒が設定した視点を元に、郷土と他地域とを比較し、地域の実態や課題を捉え、その解決方法を考えることを通して、テーマに対する認識を深めている。

2 教育研究協議会

- (1) 平成28年度教育研究協議会

- ① 期 日 平成28年5月25日（水）
- ② 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- ③ テーマ 「社会的な知性を培う」（第2次 最終年次研究）
- ④ 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業）、各教科、領域
講演会・演題 「食料を届ける ～貧困、紛争、災害の中で～」
講師 国連世界食糧計画 元アジア局長 忍足 謙朗 氏
・演題 「グローバル化に対応した日本の英語教育改革」
講師 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 向後 秀明 氏
- ⑤ 参加者 県内外教員、学生、学部教員、教育委員会指導主事、北京師範大学南奥実験校 等
校園全体で、約1100人

3 地域教育委員会、大学との連携を図った教員研修への協力

- (1) 市教育委員会が行う教員の指導力向上を目指す取組への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」や市教育センター主催研修講座に対し、授業公開や講師派遣を行った。

- (2) 大学との連携を図った現職教員研修への協力

教員免許更新講習における講座「学びをつなぎ、学びを生かす学習指導」において、大学教員との連携を図り、ゲストスピーカーとして職員を派遣し、実践発表を行った。

8. 外部資金

8.1 科学研究費補助金

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っており、今年度は1件が採択された。

平成27年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
25	基盤研究(B)	麓 慎 一	帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について
26	基盤研究(B)	伊 野 義 博	掛け合い歌のメカニズムを応用した音楽学習過程の研究—アジアの民俗音楽調査をもとに
27	基盤研究(B)	土 佐 幸 子	日米6大学連携で能動的学習型へ教授法の質的転換を図る大学物理教育イノベーション
27	基盤研究(B)	中 島 伸 子	病気やケガに関する子どもの理解・表現と大人の対応に関する研究
24	基盤研究(C)	高 木 幸 子	教師としての成長を授業実践力の視点から把握する実証的方法に関する研究
25	基盤研究(C)	佐 藤 亮 一	レーダポーラリメトリを用いた大地震に伴う津波・洪水時の水位推定と被災住宅の識別
25	基盤研究(C)	杉 澤 武 俊	心理学研究における統計的検定手法の見直しと改善
25	基盤研究(C)	神 村 栄 一	パチンコ遊技嗜癖の類型に応じたモジュール介入付き集団認知行動療法の効果検討
25	基盤研究(C)	岡 野 勉	初等数学の教育内容構成に関する実験的・歴史的研究—分教教授の歴史と構想
25	基盤研究(C)	福 田 学	言語活動という視点からみた学級の「荒れ」に関する現象学的研究
25	基盤研究(C)	長 谷 川 敬 三	等質空間上の概複素構造と共形幾何学的構造についての研究
25	基盤研究(C)	下 保 敏 和	偏光を利用した反射分光分析法の開発
26	基盤研究(C)	飯 野 由 香 利	ヒューマンファクタを考慮した学校における住環境の改善と環境制御体制の構築
26	基盤研究(C)	志 賀 隆	博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及
26	基盤研究(C)	柳 沼 宏 寿	スクリーンリテラシーの日豪比較研究～多文化主義政策の「学びの構造」分析を通して～
26	基盤研究(C)	足 立 幸 子	読者反応理論に基づく国際標準を反映した児童・生徒・教員用読書力評価パッケージ開発
26	基盤研究(C)	笠 井 直 美	性犯罪被害対策及び人工妊娠中絶防止の緊急避妊薬情報を含む学校での性教育方法の検討
26	基盤研究(C)	有 川 宏 幸	合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究
26	基盤研究(C)	鈴 木 賢 治	粗大粒を持つ部材のX線応力評価の確立
27	基盤研究(C)	伏 木 忠 義	調査不能バイアスの調整に有用な変数に関する研究
27	基盤研究(C)	山 口 智 子	コメ離れに対応する海藻つなぎ米粉麺の製造と特性評価
27	基盤研究(C)	藤 林 紀 枝	古海底火山を用いた理科教育・災害科学教育
27	基盤研究(C)	石 垣 健 二	体育学独自の研究方法としての「間身体的アプローチ」の構想
27	基盤研究(C)	山 崎 健	長距離ランニング中のエネルギー供給系とスキル系の連関モデルの検討
27	基盤研究(C)	大 庭 昌 昭	グレーディング能力を基にした平泳ぎの泳動作分析
27	基盤研究(C)	笠 卷 純 一	大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3カ年の縦断的調査から
27	基盤研究(C)	加 藤 茂 夫	Siriを利用した英語音読評価ソフトの開発と英語習熟度測定への活用可能性の探求
27	基盤研究(C)	世 取 山 洋 介	福祉国家型教育財政構想の制度化の歴史的展開と現代立憲主義による正当化に関する研究
27	基盤研究(C)	小 久 保 美 子	機能的磁気共鳴画像法による主体的な読書活動の学習効果に関する実証的研究
27	基盤研究(C)	柴 田 透	公民・経済分野における理論的対立の歴史的分析及び教育方法の研究
27	基盤研究(C)	張 間 忠 人	完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
24	若手研究(B)	山 本 啓 介	中世後期和歌会関連古記録についての基礎的研究
25	若手研究(B)	興 治 文 子	明治中期の理科筆記が紐解く日本型科学教育の源流と現代への具現化
25	若手研究(B)	前 田 洋 介	エリア型コミュニティの地理的不均等発展に関する研究
25	若手研究(B)	岸 本 功	超弦の場の理論における数値的手法に基づく古典解の解析
26	若手研究(B)	檜 皮 貴 子	体づくり運動における「ほぐし」と「体力向上」の融合型教材試案
26	若手研究(B)	岡 田 祥 平	音声学的視点を踏まえた現代日本語文法記述の精緻化の試み
27	若手研究(B)	小 野 映 介	弥生時代の沖積低地を対象としたジオアーケオロジー研究
27	若手研究(B)	古 田 徹 也	形態学としてのウィトゲンシュタイン哲学の解明
27	若手研究(B)	小 林 繁 子	近世的支配形成のダイナミクス—魔女迫害と近世国家
27	若手研究(B)	一 柳 智 紀	小グループでの学習に関する教師の実践知の検討
27	若手研究(B)	古 田 和 久	教育と職業の日本的特徴に関する実証的研究
25	挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	東アジアにおける水産業の形成と変容
25	挑戦的萌芽研究	小 堀 彩 子	教師の概念変化を促す手法を用いたバーンアウト予防プログラムの開発
27	奨励研究	高 橋 洋 子	衣生活の伝承と融合に関する事例調査—和装における洋風要素60年の変遷—

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成27年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
志賀 隆	特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合	頸城湖沼群における水生植物調査の長期モニタリングに関する研究助成
山崎 健	山崎 健	体育科学における運動生理学及び陸上競技・陸上運動の研究活動に対する助成
横山 知行	医療法人崇徳会	「チーム医療に求められる臨床心理職の資質およびその育成に関する研究」への助成

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成27年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
志賀 隆	新潟市	新潟市域の湖沼における水生植物の育成状況と埋土種子集団の構成
牛山 幸彦	公益財団法人日本卓球協会	①卓球台の振動測定を用いた配球パターン分析方法の検討 ②ブースター使用によるラバー反発特性の変化について
山口 智子	阿賀町	エゴマ葉・花芽等を用いた栄養機能性食品の試作及び温泉熱利用施設でのエゴマ通年栽培試験研究
村山 敏夫	阿賀町	エゴマ葉・花芽等を用いた栄養機能性食品の試作及び温泉熱利用施設でのエゴマ通年栽培試験研究
横山 知行	新潟県	教職員の情動的による病休取得者の職場復帰後の転帰に関する研究

○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
村山 敏夫	新潟県	集落活性化調査研究業務
永吉 秀司	宗教法人白山媛神社氏子会	白山媛神社における花鳥画の再現
清水 文博	東アジア〈書の美学〉 実行委員会	東アジア〈書の美学〉大学生のワークショップ
山口 智子	いもジェンヌ農商工連携 協議会	いもジェンヌを利用したレシピ作成及び商品開発支援

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成27年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
山口 智子	(株)ブルボン	高アミロース米に適した調理方法の開発とその特性評価
高木 幸子	ホリカフーズ(株)	災害食を活用した防災教育・食教育の研究
村山 敏夫	阿賀町	官学連携阿賀町活性化事業「新潟大学×阿賀町地域創生プロジェクト」

(巻末資料)

平成27年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	162	154	53	45
		教育心理学専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	515	480	160	135
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
美術教育専修							
保健体育専修							
推 薦 入 学	40	78	78	40	40		
小 計	220	755	712	253	220		
学習社会ネットワーク課程							
学習社会ネットワークコース		45	143	86	50	45	
生活科学課程							
生活科学コース		15	97	97	28	15	
健康スポーツ科学課程		30					
ヘルスプロモーションコース		(10)	248	212	34	31	
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	64	63	26	25	
	造形表現コース	20	68	49	26	25	
	書表現コース	15	58	56	17	16	
	小 計	60	190	168	69	66	
合 計		370	1,433	1,275	434	377	

●平成27年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	7 (3)	7 (3)	6 (2)	6 (2)
	教育心理学分野		0	0	0	0
	臨床心理学分野		4 (1)	4 (1)	2	2
	特別支援教育分野		3	3	3	3
	幼児教育分野		1 (1)	1 (1)	0	0
	教育実践開発コース	10人	6	6	6	6
	小計	20人	21 (5)	21 (5)	17 (2)	17 (2)
教科教育	国語教育専修	32人	11 (4)	10 (4)	10 (4)	10 (4)
	社会科教育専修		6	6	5	4
	英語教育専修		6	5	3	3
	数学教育専修		3	3	3	3
	理科教育専修		4	4	3	3
	音楽教育専修		4	4	4	3
	美術教育専修		5	5	4	4
	保健体育専修		11 (1)	11 (1)	10 (1)	6 (1)
	小計		32人	50 (5)	48 (5)	42 (5)
合計	52人	71 (10)	69 (10)	59 (7)	53 (7)	

※()内数字は、外国人留学生で内数

平成28年3月卒業(修了)者の就職内定状況

(1) 教育学部(教育人間科学部含む)

平成28年3月11日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率(%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
学校教員養成課程(学校教育課程)	209	16	10	17	126	40	183	17	99	37	153	100.0	78.6	92.5	83.6
学習社会ネットワーク課程	46	3	0	11	1	31	43	10	1	31	42	90.9	100.0	100.0	97.7
生活科学課程(生活環境科学課程)	20	1	0	3	0	16	19	3	0	16	19	100.0	—	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	29	7	1	5	5	11	21	5	4	11	20	100.0	80.0	100.0	95.2
芸術環境創造課程	58	12	8	3	8	27	38	3	4	26	33	100.0	50.0	96.3	86.8
計	362	39	19	39	140	125	304	38	108	121	267	97.4	77.1	96.8	87.8

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率(%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
学校教育専攻	20	1	3	3	11	2	16	3	9	1	13	100.0	81.8	50.0	81.3
教科教育専攻	37	4	2	0	24	7	31	0	16	6	22	—	66.7	85.7	71.0
計	57	5	5	3	35	9	47	3	25	7	35	100.0	71.4	77.8	74.5

(3) 養護教諭特別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率(%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
養護教諭特別科	38	0	2	5	24	7	36	5	15	6	26	100.0	62.5	85.7	72.2

注)平成27年9月卒業(修了)者を含む

教育学部附属学校生徒数

27. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	14
	4歳児学級	1	35	35	24
	5歳児学級	1	35	35	15
新潟小学校		12	35 (5年～6年 40)	440	425
	複式学級	3	16	48	48
長岡小学校		12	35 (5年～6年 40)	440	373
新潟中学校		9	40	360	355
長岡中学校		9	40	360	359
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	17
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,798	1,678

複式学級は外数

備考

附属新潟小学校及び附属長岡小学校については、平成24年度入学児童の1学級定員が40人から35人になり、学年進行により収容定員は順次改訂されます。